

**令和6年度大学教育再生戦略推進費
「大学の世界展開力強化事業」 計画調書
～EU諸国等との大学間交流形成支援～**

[基本情報]		タイプA		
1	大学名 (○が代表申請大学)	慶應義塾大学		
2	機関番号	代表申請大学	32612	
3	主たる交流先の相手国	フランス、ドイツ、イタリア、ポーランド、ベルギー、スウェーデン 他		
4	事業者 (大学の設置者)	ふりがな (氏名)	いとう こうへい 伊藤 公平	(所属・職名) 学校法人慶應義塾・塾長
5	申請者 (大学の学長)	ふりがな (氏名)	いとう こうへい 伊藤 公平	
6	事業責任者	ふりがな (氏名)	たけむら けんじろう 竹村 研治郎	(所属・職名) 慶應義塾大学理工学部・教授
7	プログラム名	【和文】 日欧が相補的に提供するLearning Agreement型国際共同学位プログラム 【英文】 Japan-Europe Complementary Learning Agreement-based Joint Master's Program		
8	分野 (該当ある場合のみ)	☐ 半導体 ☐ AI ☐ 量子技術 ☐ バイオ技術 左記のうち、主たる1分野があれば選択		
9	取組学部・研究科等名 (必要に応じ[]書きで課程区分を記入。複数の部局で合わせて取組を形成する場合は、全ての部局名を記入。大学全体の場合は全学と記入の上[]書きで全ての部局名を記入。)	学問分野 ☒ 理工系 ☐ 農学系 ☐ 医歯薬系 ☐ 看護・医療系 ☐ 全学 ☐ その他 実施対象 (学部・大学院) ☐ 学部 ☒ 大学院 ☐ 学部及び大学院	理工学部・理工学研究科	

10. 海外相手大学				
	国名	大学名(日本語)	大学名(英語)	部局名
1	フランス	エコール・サントラル・グループ	Ecole Centrale Group	全学
2	ドイツ	アーヘン工科大学	RWTH Aachen University	全学
3	ドイツ	ミュンヘン工科大学	Technical University of Munich	全学
4	イタリア	ミラノ工科大学	Politecnico di Milano	全学
5	イタリア	ジェノヴァ大学	University of Genoa	工学部
6	ポーランド	ワルシャワ工科大学	Warsaw University of Technology	全学
7	ベルギー	ブリュッセル自由大学	Université libre de Bruxelles(ULB)	工学部
8	ベルギー	ルーヴァンカソリック大学	Université Catholique de Louvain(UCLouvain)	工学部
9	スウェーデン	王立工科大学	KTH Royal Institute of Technology	全学
10	その他	T.I.M.E Association加盟大学	T.I.M.E Association	

11. 連携してプログラムを実施する機関(国内連携大学等)				
	大学等名	取組学部・研究科等名		大学等名
1		なし	4	
2			5	
3			6	

12. 「学校教育法施行規則」第172条の2第1項において「公表するものとする」とされた教育研究活動等の状況について、公表しているHPのURL

慶應義塾,「情報公開:[慶應義塾]」, <https://www.keio.ac.jp/ja/about/learn-more/data/>, Accessed 2024-04-17

13. 本事業経費

(単位:千円) ※千円未満は切り捨て

年度		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	合 計
事業規模 (総事業費)		15,600	16,000	16,300	11,366	6,333	65,599
内 訳	補助金申請額	15,600	16,000	16,000	10,666	5,333	63,599
	大学負担額			300	700	1,000	2,000

14. 本事業事務総括者部課の連絡先

部課名			所在地		
責任者	ふりがな (氏名)		(所属・職名)		
担当者	ふりがな (氏名)		(所属・職名)		
	電話番号		緊急連絡先		
	e-mail(主)		e-mail(副)		

(大学名:慶應義塾大学) タイプA

質の保証を伴った交流プログラムの目的と内容									
① 交流プログラムの目的・概要等【1 ページ以内】									
【交流プログラムの目的及び概要等】									
本申請事業では 1) 日欧が重点分野の科目群を相補的に提供する Learning Agreement 型国際共同学位プログラム 2) 日本人学生の準備レベルに応じて設計された留学エンカレッジプログラム 3) キャリアパスを支援する頭脳循環ネットワーキングイベント Keio Double Degree Day を提供し、専門性の高いダブルディグリー（DD）プログラムを展開することを目的とする。 Learning Agreement 型国際共同学位プログラムでは、本学理工学研究科と欧州パートナー校が重点分野に関する科目群やプロジェクトをパッケージとして学生に提示し、修士 DD 期間を通して相補的に科目や研究環境を提供することで、単独では実現できない当該分野を深く学修する機会を実現する。また、修了時に Double Degree Certificate を発行して DD 期間での重点分野の学修内容を明示する。これにより当該分野でのキャリア形成にも寄与するプログラムとする。 留学エンカレッジプログラムでは、多様性の本質的な意義に触れる機会が少なかった日本人の学部学生に対して、自身のキャリアパスにおいて海外を知ることの価値を意識する機会を提供し、修士課程において国際共同学位プログラムに挑戦する意欲をかきたてる。なお、学生ごとの経済的な事情や申請事業の補助期間終了後の持続可能性にも配慮して、慶應義塾大学が有する良質なアジア有力大学とのネットワークを活用したコストエフェクティブな留学エンカレッジプログラムを準備する。 Keio Double Degree Day では、DD 修了後のキャリアパスを交流イベントを通して支援することによって、国際共同学位プログラムを修了した価値を最大限活かせるフォローアップの場を提供する。そこでは、DD 修了生、DD 現役生に加えて、日欧 DD 修了生の採用に積極的な企業などにも参加いただき、新たな出会いと人材のモビリティ向上の一助とする。 このように、留学の準備、重点分野の教育を日欧で相補的に設計した修士 DD、修了後のキャリア支援という段階的な支援（インプット）を本申請事業で展開することによって、当該分野で DD 取得する日本人および外国人が増加する（アウトプット）。その結果、欧州において重点分野で活躍し得る日本人修了生の母数が増すため、標準化等で世界をリードする欧州での日本人の発言力の増加が期待できる。また、逆に欧州からの留学生が修了後に日本での重点分野関連産業等に貢献する可能性も増加し、日欧間での頭脳循環が促進される（アウトカム）。なお、派遣および受入の具体的な目標はページ下部に記載した。									
【養成する人材像】									
本申請事業を通して育成する人材は、以下の素養、能力を有することを目標とする。 ・ 重点分野において高い専門性を有する ・ 母国語および英語を運用し、一対一に留まらず多人数での専門分野の議論をリードできる ・ 地球規模の多様な重要課題に対して、自らの専門性を軸に多様な人材との対話を通じて対応策を提案できる ・ 多文化、多言語への理解が深く、多様性に寛容でその意義を理解している ・ 一箇所に留まることなく、自身の活躍の場を流動的に探索できる									
【本プログラムで計画している交流学生数】 各年度の派遣及び受入合計人数（交流期間、単位の取得の有無は問わない）									
2024 年度		2025 年度		2026 年度		2027 年度		2028 年度	
派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
35	40	65	55	70	55	90	55	100	55

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

② プログラムの概念図【1 ページ以内】



多文化多言語を理解し、あらゆる流動性に 適応できる高度グローバル人材



～ 2040年、地球規模の頭脳循環の一翼を担う日本となるために～

フォローアップ

20年におよぶ慶応理工-EU間のDD実績に基づくフォローアップ Keio Double Degree Day (KDDD)

- 2005年にスタートしたDDプログラムの修了生（EUパートナー15校、延べ442名）を含めたホームカミングイベント
- DD候補生、DD現役生、DD修了生の出会いの場
- 日欧からの招待企業とDD修了生のマッチング、人材流動の促進

LA
DD

重点分野の科目やプロジェクトを日欧が相補的に提供する Learning Agreement 型国際共同学位プログラム

- 重点分野（半導体、AI、量子、バイオ）関連科目やプロジェクトをパッケージにした認定科目群を提示するDDプログラム
- 実績に基づく質保証を伴う合理的な日欧間単位換算システム
- 重点分野の学修を保証する Double Degree Certificate の発行

修士課程

良質なアジアネットワークを活用した持続可能な 留学エンカレッジプログラム

- アジア有力大学等との緊密なネットワークを活用した視野拡大動機づけプログラム（数日単位、週単位、学期単位の各種プログラム）
- 近隣国ネットワークの活用により運用費用を抑え、自走後も持続可能に
- 一部のプログラムでは欧州パートナー校の学生と協働し、早期の相互理解を推進

学部

慶応

EU

（大学名：慶應義塾大学）（タイプ：A）

③ 国内大学等の連携図【1 ページ以内】

本プログラムは慶應義塾大学と欧州パートナー校の間で分野を明示した修士課程 DD プログラムである。2005 年にスタートした本学と欧州の DD プログラムを、2040 年を見据えて発展させるために本申請事業での支援を活用したい。このため、DD プログラムだけでなく学部生への留学エンカレッジプログラムや修了後のフォローアップを本学の実績に基づいて完結させることによって、自走後の持続可能性を確保する。このため、国内他大学との連携は行わず、慶應義塾大学のみで実施する。

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

④ 交流プログラムの内容及び大学間交流の枠組み形成【8 ページ以内】

【実績・準備状況】

2039 年に創立 100 周年を迎える慶應義塾大学理工学部は、15 年後の理工学部・理工学研究科が今よりも開かれて、国内外で学生、教職員が行き来する流動的なキャンパスとなることで、**世界規模での頭脳循環ネットワークの一翼を担う**ことを目指している。人間（じんかん）交際を謳う慶應義塾としてその責任を果たしたい。

これまで慶應義塾大学理工学部・理工学研究科では 2003 年に International Graduate Program (IGP)を設置して英語のみでの修士学位および博士学位の取得を可能とし、これをベースに 2005 年に欧州パートナー校との間で修士学位のダブルディグリー (DD) プログラムをスタートさせた。現在では**欧州 6 カ国で合計 15 の大学と 3 年間の修士学位 DD プログラムを運用している（2024 年現在、累積の参加者数 受入 361 名、派遣 177 名）**。この DD プログラムは、双方のカリキュラムを尊重して運用される交換協定をベースとした学生の相互派遣であり、一部の取得単位を相互に認定することで DD を授与している。

長年にわたる緊密な DD 生の相互派遣による信頼に基づいて、2020 年には有力な提携先であるフランス Ecole Centrale de Nantes を中心とした欧州 3 大学と本学理工学研究科でカリキュラムを共同開発することにより、ローカルトラックとは独立して**パートナー校がカリキュラムを相補的に提供する 2 年間の修士学位 DD である JEMARO（Japan-Europe Master on Advanced Robotics）**プログラムをスタートさせた。学生の相互派遣とは異なり、パートナー校が共同で全世界から学生を募集する新たな修士課程 DD であり、1 学年 24 名の定員に対して**5 年間で毎年平均 600 名の応募**を得ている。このことは欧州有力大学と慶應義塾大学の組み合わせが世界的にも魅力的なパートナーシップであることを客観的に示している。

単位取得だけではなく学位取得を伴う質を保証した欧州との DD プログラムを 20 年近くにわたり運用してきた本学理工学部・理工学研究科は、2039 年の創立 100 周年に向けて DD プログラムを一層充実させることで、**高度グローバル人材の地球規模での頭脳循環のハブ**として貢献することを目指す（図 1）。本申請事業は、その計画の一翼を担うものであり、本事業の補助期間終了の 2028 年までの期間は次なる 15 年となる 2039 年を目指した DD 改革のスタートダッシュ期間に当たる。なお、この方針は申請者でもある慶應義塾長 伊藤公平と共有し、慶應義塾常任理事（国際担当）である土屋大洋とともに下記の計画を策定した。

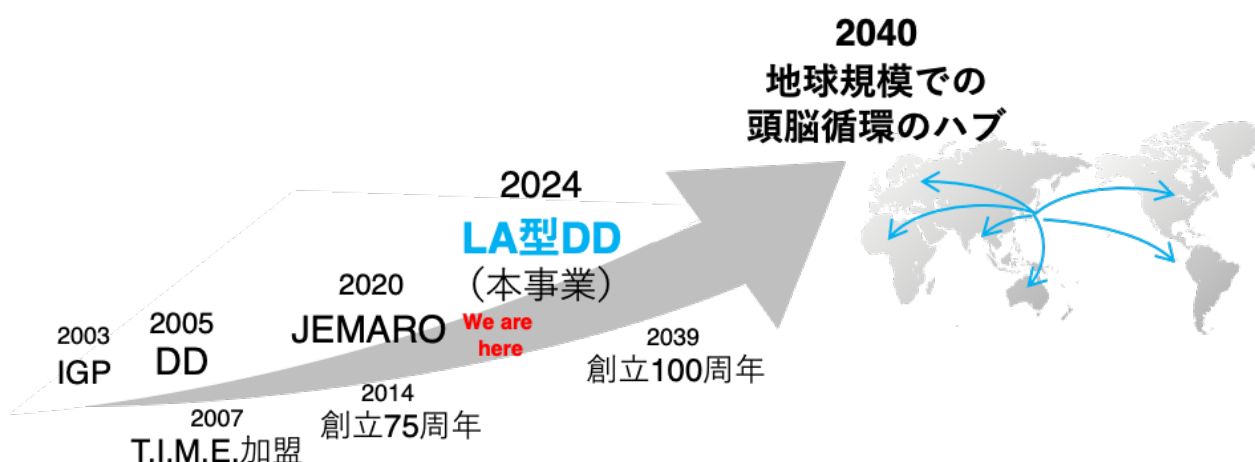


図 1 慶應義塾大学理工学部・理工学研究科の国際化と 15 年後の目標

【計画内容】

本申請事業では、主に

- 1) 重点分野ごとの科目群を相補的に提供する Learning Agreement 型国際共同学位プログラム、
- 2) 学部生向け留学エンカレッジプログラム、
- 3) 修了生と現役生を社会とつなぐ Keio Double Degree Day の基盤を確立する計画である。

柱となるこれら 3 つプログラムに加えて、これらの質を保証しつつ円滑に実施するための工夫と更なる展望を含めて、具体的な計画を以下に記す。

1) 日欧が特定分野の科目群を相補的に提供する Learning Agreement 型国際共同学位プログラム

欧州の世紀と言われる 19 世紀以来、ヨーロッパは常に世界的なスタンダード、標準化の中心にいる。高等教育におけるモビリティの拡大においても欧州は常に先駆的な立場をとってきた。地理的にも比較的近接した大国が集まり、欧州統合の名のもとに 1999 年のボローニャ宣言以降、教育統合を強力に推進してきた欧州の優位性は強固である。本学理工学部・理工学研究科は 2007 年に欧州の高等教育モビリティネットワークのひとつである T.I.M.E. (Top International Manager in Engineering) Association に加盟し、国際共同学位プログラムの議論に積極的に参画してきた。Erasmus Mundus Joint Masters の実施を通じた欧州パートナー校との対話や協定校との独自のネットワーク、EAIE (European Association for International Education) の Annual Conference への参加などを通して、欧州のモビリティの議論が Double Degree (DD), Joint Degree (JD), Joint Degree Label (JDL) 型国際共同学位と進化してきたことをリアルタイムに認識し、**欧州との国際共同学位プログラムのあり方を国内外に発信してきた。**

2021 年から 22 年には、日-EU 戦略的高等教育連携支援プラットフォーム構築事業シンポジウムを 3 回開催した。各回、日-EU 国際共同学位プログラムの質保証や導入と実践に焦点を当て、国内外から延べ 434 名が参加した。国外においても EAIE2023 にて“Challenges and opportunities in establishing joint degree programmes between the EU and Japan”と題したセッションをEcole Central de Nantes、Warsaw University of Technologyとともに共同で開催し（写真 1）、国際共同学位プログラム運営に関わる知見や JD プログラムの設置と認証評価に関わる日欧の違いを紹介した。50 席ほどの会場は各国からの参加者で満席となり、発表後の質疑応答も活発に行われた。



写真 1 EAIE2023 でセッションを企画した関係者

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

欧州域内でさえ多様な価値観、多様な学位制度がある中で JD の実施数は限定的であり、これからのモビリティモデルとして JDL 型国際共同学位の議論が行われ、パイロットスタディでの検証が始まっている（例えば、ERASMUS-EDU-2022-POL-EXP-EUdegree）。JDL 型国際共同学位では入試やカリキュラムの共同開発などパートナー校同士の協働がより重要になると言われている。パイロットスタディの経過を注視しつつ、交換協定ベースの従来型 DD からこうした欧州域内での試行に機動的に対応する体制を常に維持することは、我が国が欧州との共同学位プログラムを対等なパートナーとして運営する上で不可欠であり、高度グローバル人材の頭脳循環ネットワークの一躍を担う国たり得る条件であろう。

このため、本申請事業では半導体、AI、量子技術、バイオ技術などの重点分野に対して、本学と欧州パートナー校が提供する科目やプロジェクトを事前の十分な協議と理解に基づいて認定し、相互補完して科目群を提示することによって当該分野での学習の質保証を明確化する Learning Agreement 型国際共同学位（DD）プログラムを実施する（図 2）。本学理工学研究科が運用してきた従来型 DD では、DD 協定の範囲内であれば学生が留学先でどのような分野を学修するかは学生の自由である。これに対して、本申請事業で Learning Agreement 型 DD を実施することによって、半導体、AI、量子技術、バイオ技術などの重点分野を明示して、各分野に高い専門生を持つ DD 修了生を輩出できる。特に、コースワークを中心とした欧州の修士課程と、研究活動を中心とした本学理工学研究科の修士課程が当該分野に関する Learning Agreement 型 DD プログラムを構築することにより、専門性が高い学びと実践がパッケージとなった強力な学修環境を提供できる。

なお、ここで言う Learning Agreement とは、本学理工学研究科と欧州パートナー校が当該分野での相補的な学びの提供を事前共有することを指す。特に、本学理工学研究科修士課程での学びは、各分野の境界を拡大する研究活動を通じた学生の能力開発が重要な役割を果たしており、慶應義塾の教育理念のひとつでもある「半学半教」を実践し、学生と教員が互いに学び、互いに教える高度な実践環境であることを欧州パートナー校の教職員、学生と共有する意味も含む。このためには、パートナー校と事前に緊密な議論の場を持つ必要があり、カウンターパートとの協働を通じた Faculty and Staff Development としての側面も持つ。

本学理工学部・理工学研究科は欧州の有力大学と従来型 DD を長く運用してきた。これまでは双方のカリキュラムを尊重して、分野ごとの事前協議などは行なっていないが、欧州からの DD 修了生の実績（表 1）を見ると結果として本申請事業の重点分野である半導体、AI、量子技術、バイオ技術に関して多くの人材を輩出しており、明示的にこうした分野を提示する Learning Agreement 型国際共同学位プログラムを実施できる基盤を十分に持ち合わせている。将来、JDL 型国際共同学位へと発展させる上でも、本申請事業を通して相補的 Learning Agreement 型国際共同学位プログラムを確立する意義は大きい。

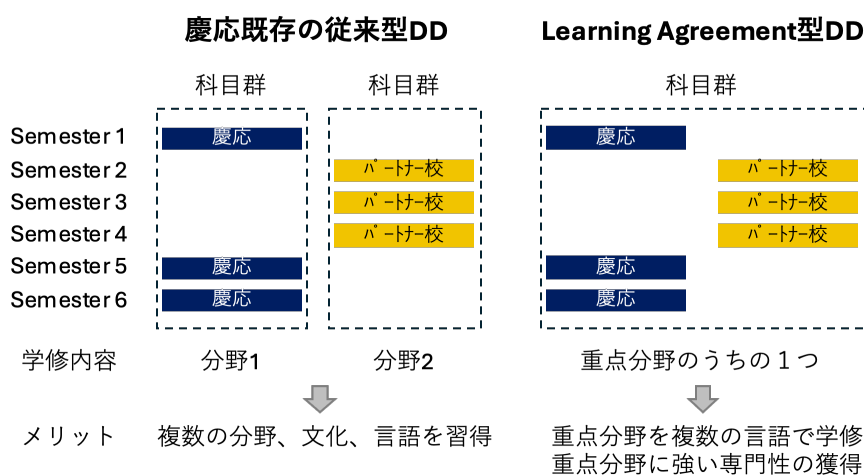


図 2 既存 DD と Learning Agreement 型 DD（慶応学生の場合）

（大学名：慶應義塾大学）（タイプ：A）

表 1 欧州からの DD 参加生の専攻分野の実績 (2024 年 4 月現在)

半導体	AI	量子	バイオ	環境/材料	製造技術	応用数学	その他	合計
22	164	21	15	67	17	39	16	361
6%	45%	6%	4%	19%	5%	11%	4%	100%

Learning Agreement 型国際共同学位プログラムは修了後のキャリア形成においても有効である。本学では留学生への企業見学やインターンシップの機会、同窓会組織による日本文化の体験や日本での生活支援がすでに提供されており、これまで欧州からの DD 修了生 361 名のうち少なくとも 71 名が修了後に日本国内で就職・進学しているなど、我が国と欧州のブリッジ人材の輩出に貢献している。一方、日本人 DD 修了生 122 名のうち、海外で就職・進学したのは 9 名（外資系企業の日本法人は除く）であり、日本人の外国でのキャリア形成が十分に促進できていない。欧州パートナー校では在籍中に学外でのインターンシップが必須であり、これまでも修了生のキャリアパスの一助となっているが、Learning Agreement 型国際共同学位プログラムとして分野が明確化されれば、ジョブ型採用が中心の欧州における日本人学生のキャリア形成を強力に後押しする効果が期待できる。この一助とすべく、DD 修了時に日欧での学修内容や研究活動を通じた対外発表、発明などを明示した **Double Degree Certificate** を発行し、当該分野における高度グローバル人材であることを明確化する。日欧で重要性を増している重点分野を明示した Learning Agreement 型国際共同学位プログラムによって、欧州で活躍する日本人の増加に一層貢献したい。

なお、Learning Agreement 型国際共同学位プログラムでは、我が国と欧州の単位制度の違いに対する事前の相互理解が不可欠である。本学理工学研究科修士課程は研究関連単位 10 単位と講義関連単位 20 単位の合計 30 単位で修了する。一方、欧州では 1 学期 30 ECTS の 4 学期分となる 120 ECTS で修了する。本学での学生の実質的な活動時間に鑑み、これまでの T. I. M. E. Association 加盟校の一部との DD においては表 2 のような換算表を欧州側に提案し、我が国の研究活動を中心とした修士課程の特性を理解いただき、合意してきた実績がある。相手校の事情によりフレキシビリティは留保しつつ、Learning Agreement 型国際共同学位プログラムにおいてもこの表に基づいて質保証を伴う合理的な単位換算を実施する予定である。

表 2 T. I. M. E. における慶応と EU の修士単位換算の考え方の一例

		慶応修士学生の典型的な単位取得例	EU 単位への換算	単位換算比率
1 年目	講義	20 単位	20 ECTS	1:1
	研究	4 単位	40 ECTS	1:10
2 年目	講義	0 単位	0 ECTS	1:1
	研究	6 単位	60 ECTS	1:10
合計	—	30 単位	120 ECTS	—

Learning Agreement 型国際共同学位プログラムの実施も見据えて、本学理工学研究科では大学院組織改革の議論を重ねてきた。現行の本学理工学研究科は専攻によらずディプロマポリシーを共通としているため、専門分野の特性に関わらず研究関連単位 10 単位と講義関連単位 20 単位の合計 30 単位で修了する（上述の通り）。より柔軟な学位認定を可能とするために、組織ごとにディプロマポリシーを設定できるよう改革が進んでおり、分野の特性に応じて研究と講義のバランスを変更可能とするための大枠の議論をすでに終えた。これと並行して、欧州の有力な提携先である Ecole Centrale de Nantes を中心とした欧州 4 校とのロボティクス分野限定の DD を欧州 Erasmus+ プログラムに申請すべく議論している。このように分野ごとに日欧が相補的にカリキュラムを構成する Learning Agreement 型国際共同学位プログラムの実施に向けた環境や欧州との協議の実績は整いつつある。

2) 準備レベルに応じて設計された学部生向け留学エンカレッジプログラム

日本人学生あるいは保証人にとって留学への最大の障壁は「知らないこと」である。本学においても比較的似た環境で育ってきた日本人学生の多くは、諸外国の学生に比べて国外での生活や外国人との会話の経験が極端に少なく、国際経験の本質的な重要性を認識できていない。重要性を認識する機会さえあれば、挑戦できる能力は十分にある。このため、本申請事業では学生の準備レベルに応じて以下のような学部生向け留学エンカレッジプログラムを提供し、DD プログラムに向けたポータルサイトに整理することで DD 取得への道筋を明示する計画である。なお、**本申請事業での補助期間終了後の持続可能性に鑑み、学部生の派遣先は欧州に限らず本学理工学部・理工学研究科が育んできたアジアの良質なネットワークを最大限活用し、留学へのハードルを下げる留学エンカレッジプログラムをコストエフェクティブに構築することを目指す。**

① 日本にいながら外国を知る

英語開講科目の拡充：

本学理工学部の講義はほぼすべてが日本語で提供されている。このため、交換協定があっても日本語が話せない留学生を受け入れることができない。Learning Agreement 型国際共同学位プログラムのキーワードとなる分野に関連する講義の英語化を促進し、少なくとも学生ビザの取得に必要な科目数以上の英語開講科目を準備する。これにより、関連分野に意欲的な留学生を学部時代から受け入れられるだけでなく、日本人学生が英語開講科目を履修することで当該分野での英語運用能力を獲得しつつ、日本語が話せない学生と共に学ぶ環境を構築する。

日英両言語で議論する科目の充実：

参加型の授業形態は世界で広く行われている。英語での議論に加えて、日本語で議論する機会も提供することによって、母国語による深い思考と英語による発話が対応した科目を充実させる。これにより、「議論」の能力を高め、修士課程 DD への挑戦に相応しい高度な思考力を日英両言語で獲得できる環境を整える。

欧州からの留学生との交流機会の創出：

本学理工学研究科には欧州から多くの留学生が在籍しており、2024年5月現在104名にのぼる（留学生249名中）。その中でもフランスからの留学生とフランスとの DD に参加し日本人学生を中心にして Organisation Franco-Japonaise という活動が展開されており、フランス留学に興味がある1、2年生と交流している。フランス以外からの留学生も含めてこうした学生主体の交流機会が拡大するよう、留学生および留学経験者に働きかける。

② 海外の大学生・大学院生と協働する

グローバルリーダーシップセミナー研修：

韓国 延世大学／高麗大学、台湾 淡江大学、米国 カリフォルニア大学サンタバーバラ校との数日～1週間程度のグローバルリーダーシップセミナー研修を拡充する。特に、韓国、台湾を中心とした東アジアの有力大学との協働プログラムを充実させることにより、旅費等を勘案した効率的なプログラムを構築する。なお、高麗大学、淡江大学とはすでにグローバルリーダーシップセミナー研修を10年にわたり共同運営しており、短期間でも学生が集中的に良好な関係を築けるプログラムの実績（写真2）があるだけでなく、韓国や台湾の有力大学の学生の英語運用能力が極めて高いことを実感している。また、こうしたグローバルリーダーシップセミナー研修に欧州パートナー校の学生を一定数受け入れることで、DDの派遣・受入ともにエンカレッジすることも検討する。



写真 2 高麗大学とのグローバルリーダーシップセミナー研修の様子

合同企業見学プログラム：

本学理工学部では、授業の一環として以前から工場見学を行っている。理系学生の卒業後の進路に鑑みれば、現在では卒業生の活躍の場は国内にとどまらないことが容易に想像でき、競争や協業のパートナーとなり得る同世代の外国人との早期の交流の意義は大きい。このため、日本企業との関係も深い韓国やタイでの企業訪問を、アジアの有力な提携校である延世大学やカセサート大学と共同で実施し、学生同士の国際的ネットワーキングの一助とする。

欧州短期プログラム：

独 RWTH Aachen や仏 Ecole Centrale de Nantes とは本学理工学部・理工学研究科は 60 年以上にわたって交流があり、単位取得を伴う欧州短期プログラムを提供している。また、2007 年の T. I. M. E. Association への加盟によって DD パートナー校も増加し、仏 IMT Atlantique や INSA Lyon などから良質な短期プログラム（単位認定なし）の提供を受けており、今後の派遣数には拡大の余地がある。アジアで国際経験の意義を意識した学生に対して、Keio Learning Management System 等を活用して DD パートナー校を直接感じられるこうした既存プログラムの情報提供を強化する。

③ 外国で単位を取得する**交換留学派遣の充実：**

英語開講科目の充実による学部交換留学生の受入とともに、提携校への学部生の派遣を促進する。学部交換留学に関する充実した情報発信を図るために、提携先との十分な協議によって、本学理工学部のカリキュラムにマッチする単位互換可能な科目群をリストアップして学生に提供することにより、留学による学習進度の遅れ（原級）への不安を解消するなど、学生や保証人に心理的安心を提供する。また、学内アンケートによれば、留学を躊躇する理由として語学力不足とともに経済的な理由を挙げる学生が多い。交換協定校との緊密な情報共有だけでなく、英語での単位取得が可能でありつつも比較的経済的負担の少ないアジアの有力大学への交換留学の可能性も学生に提示したい。

3) キャリアパスを支援する頭脳循環ネットワーキングイベント Keio Double Degree Day (KDDD)

これまで述べてきたように、慶應義塾大学理工学部・理工学研究科は 20 年近くにわたり欧州との DD プログラムを運用してきた。この経験から、DD 修了生のその後の進路をある程度把握しており、欧州からの DD 修了生 320 名中 71 名が日本で就職、あるいは本学を含む日本国内で進学しているのは前述のとおりである。一方、日本人の DD 修了生 122 名の中で海外で就職・進学した者は 9 名である。日本人 DD 修了生の就職先での業務内容までは把握できないが、欧州からの DD 生が日本と欧州を結ぶブリッジ人材として活躍しているのに対して、日本人 DD 生の国内志向は明らかに高い。これは我が国特有の新卒一括採用の風土によるところも大きいと思われる。こうしたキャリアパスに関する意識や風土の違いを認識するために、DD 修了生と DD 現役生をつなぐネットワーキングイベントと

（大学名：慶應義塾大学）（タイプ：A）

して Keio Double Degree Day (KDDD、ケイ・トリプル・ディー) を年 1 回開催する。

採用活動直結のインターンシップの解禁など、我が国の就職・採用制度は変革期を迎えているものの 4 月からの新卒一括採用の傾向は強く、必ずしも高度グローバル人材の世界規模での頭脳循環ネットワークの一端を担う環境が整っていない。多様な DD 修了生と DD 現役生とのネットワーキングの場を提供することで、特に日本人学生のキャリアパスへの視野の広がりが期待できる。なお、この KDDD は学部学生にもアナウンスし、DD 現役生だけでなく多くの日本人学生が多様なキャリアパスを意識する機会としたい。

また、KDDD には高度グローバル人材の頭脳循環を実践する、あるいはそれに共感する企業にもご参加いただく。これにより、**DD 修了生と企業に新たな出会いを提供し、フォローアップの場**としても活用する。世界を舞台に活躍する日本と欧州の高度グローバル人材と、そうした舞台を提供する企業が一同に介する場として、慶應義塾大学理工学部・理工学研究科が両者のハブの役割を果たす計画である。

4) 質保証を伴う国際共同学位プログラムを円滑に進めるための運営上の工夫

① パートナー校への教職員の派遣

Learning Agreement 型国際共同学位プログラムの円滑な運営には、パートナー校と緊密かつ日常的な協働が不可欠である。そのためには、相互に教職員を派遣して国による制度の違いなどを理解することに務め、一層の信頼関係を構築する。

② 自走後の運用体制の準備

本申請事業は新たな国際共同学位プログラムの体制構築にとって重要な経済的支援である。派遣、受入の学生数を増加させることを目指しており、事業終了後にもプログラムの規模を維持、拡大するための運営体制を整える。具体的には、本学理工学部・理工学研究科の学部裁量人事枠を国際共同学位プログラムの運用人員に充てることを検討するとともに、現在行っている安全保障貿易管理システムをよりシステマティックにアップデートすることで、効率的かつ適切な留学生受け入れ体制を整える。

③ 大学院先取り科目の拡充

本学理工学部・理工学研究科では一部の大学院科目において学部生による先取り制度がすでにあり、修士課程の 407 科目中 225 科目が先取り可能となっている (2024 年度)。学生が大学院に進学した場合には先取りした単位が修了単位として認定される本制度を、Learning Agreement 型国際共同学位プログラムの認定科目で拡充することによって、日本人学生が欧州での DD プログラムにより集中できる環境を準備する。

④ Grade Point Transfer System の事前合意による成績互換の透明性の確保

Learning Agreement 型国際共同学位プログラムでは、各分野に関連する科目やプロジェクトを事前合意して学生に提示する予定である。この際、シラバスに記載された到達目標に加えて、Grade Point Transfer System も事前に準備することで単位取得後の成績互換の透明性も確保し、質保証することとする。表 3 は本学理工学研究科が Ecole Centrale de Nantes、University of Genoa、Warsaw University of Technology とカリキュラムを共同開発して運営する JEMARO プログラムにおいて事前合意された Grade Point Transfer System であり、こうした質保証のための合意形成の議論はすでに経験している。

表 3 JEMARO プログラムにおける Grade Point Transfer System

(a) from EU to 慶応

ECN	A+	A	A-	B+	B	B-	C+	C	C-	D
慶応	S			A		B		C		

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

UniGe	30elode	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18
慶応	S					A			B			C		

WUT	5	4.5	4	3.5	3
慶応	S	A	B	C	

(b) from 慶応 to EU

慶応	S			A		B			C	
ECN	A+			B+		B-			D	
UniGe	30			26		23			18	
WUT	5			4.5		4			3	

⑤ 外部評価委員による評価

国際共同学位プログラムの適切な運営にはパートナー校との協働に加えて、第三者による評価も重要である。当初計画された運営が適切に行われ、適宜アップデートされているかを、外部評価委員による年次点検を通してチェックいただく体制を整える。なお、JEMARO プログラムでは日欧から外部評価委員 3 名に参画いただいている Quality Committee を設置しており、第三者の目からプログラムの実施状況をチェックいただいている。JEMARO プログラムの Quality Committee の責任者は本学担当者が担っており、日欧での共同学位プログラムの評価体制の構築経験がある。

5) 国際共同学位プログラムのトレンドの継続的なキャッチアップと先導

先述のように、国際共同学位プログラムの構築は常に欧州が先導してきた。その中で、各国での学位制度の違いと質保証の議論は常に行われている。本学理工学部・理工学研究科は、高等教育モビリティネットワークのひとつである T. I. M. E. Association のメンバーとして 2007 年から常に国際共同学位プログラムの議論に加わってきた。今後も T. I. M. E. Association の枠組みを活用して、DD、JD、そして欧州でパイロットスタディが始まった JDL 型国際共同学位といった潮流を意識しつつ、日欧間 DD プログラムの効果的な運用を継続する予定である。また、DD 修了生のキャリアパスの多様化を促進するにあたり、日本人学生が欧州で DD 修了を迎えられる制度の可能性も検討する。例えば、本申請事業を通して Learning Agreement 型国際共同学位プログラムが実装されれば各校での取得科目群が事前に明確になるため、学生の実質的な学習時間を確保した上で、質保証された取得単位の自動認定の可能性もある。これにより帰国後の単位認定手続きが不要となれば、日本人学生が欧州で DD プログラム最終学期を過ごして修了でき、新卒一括採用の風土から解放されて欧州での就職・進学の可能性が広がる。3)に記載したように、日本で修了した欧州からの DD 修了生の 20% は日本で就職・進学しており、その逆も促進することで世界的な高度グローバル人材の頭脳循環のトレンドに我が国も対等な立場で貢献できる可能性がある。

本学理工学部・理工学研究科は 20 年近くにわたる国際共同学位プログラムの経験から、各国の学位制度の違いがもたらす障壁を十分理解している。このため、本申請事業の一環である 4) ①に示した教職員の相互派遣などを通して、今後の国際共同学位プログラムの動向を注視するだけでなく、日本人の地球規模での活躍を促進し得るプログラムのあり方について主体的に議論を展開する計画である。なお、現在 24 カ国 56 校が加盟する T. I. M. E. は当初 Top Industrial Managers for Europe として発足した。これを Top International Managers in Engineering へと発展させる議論をリードしたのは慶應義塾大学を筆頭とする南米や大洋州など、欧州外の大学からの働きかけであり、我々は欧州での国際共同学位プログラムの議論に参画できる立場にあると考えている。

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

達成目標【①～②-2 合わせて 4 ページ以内】	
① 養成しようとするグローバル人材像について	
(i) プログラム計画全体の達成目標（プログラム開始～2028 年度まで）	
重点分野に高い専門性を有する高度グローバル人材を輩出することが、Learning Agreement 型国際共同学位プログラムの最大の目標である。こうした人材には以下の能力と素養を有することを期待する。	
1) 重点分野において高い専門性を有する 学部教育による理工学における確かな基礎学力に立脚し、DD プログラムを通して Learning Agreement 型 DD 科目群を着実に学修することによって高いレベルの専門知識を有する。	
2) 母国語および英語を運用し、一対一に留まらず多人数での専門分野の議論をリードできる 日欧でそれぞれ一定期間を過ごし、修士修了要件を満たす単位数を取得する経験を通して、博士学取得者等を含めた国際的な専門家の議論に参加できる能力を有する。	
3) 地球規模の多様な重要課題に対して、自らの専門性を軸に多様な人材との対話を通して対応策を提案できる 重点分野を深く学ぶことは、言い換えればその専門性に立脚した思考能力を獲得することである。地球規模の重要課題は時代とともに変化するが、そうした多様な課題に対しても獲得した専門性に立脚して対応策を思考し、提案できる能力を有する。	
4) 多文化、多言語への理解が深く、多様性に寛容で DE&I の意義を理解している 学生モビリティの最大のメリットのひとつは、視野の拡大である。これまで育ってきた環境の外に広がる別世界を知り、様々な考え方に触れることの意義は大きい。多様な考え方の中で起こり得る摩擦に対処できるエネルギーを有し、Diversity, Equity & Inclusion の意義を理解している。	
5) 一箇所に留まることなく、自身の活躍の場を流動的に探索できる 世界は常に変化している。例えば、以前は日本で必要とされていた産業が、今は別の国で必要とされているなど、自身の能力を最大限活かせる場所は常に一箇所とは限らない。これを理解し、流動的に活躍の場を探索する能力を有する。	
1)～3)の能力や素養は、提出された修士論文の査読、および修士論文審査会において少なくとも 3 名以上の審査資格を有する教員との質疑を通して確認する。4)5)は DD プログラムの準備段階あるいは修了後も継続的に鍛えるべき素養であり、修了時点で成否を判定すべきものではないと考えている。	
(ii) 中間評価までの達成目標（プログラム開始～2025 年度まで）	
養成しようとするグローバル人材像は、中間評価の 2025 年度までもそれ以降も変わらない。2025 年までを Learning Agreement 型国際共同プログラムに参加する学部学生の準備期間ととらえるならば、上記 4)5)を醸成する期間と捉えたい。すなわち、学部生に対する留学エンカレッジプログラムにおいて、英語運用能力や海外経験に留まらず、本学理工学部がこれまでに育んできた良質な大学間ネットワークを活用して、将来のライバルになり得る同年代の外国人学生と集中的に議論し、人的ネットワーク基盤の充実を図る。具体的な目標を以下に示す。	
- グローバルリーダーシップ研修への参加： 30 名／年 - 日本語と英語で深く議論するグローバルリーダーシップセミナーへの参加： 60 名／年 - 欧州短期プログラムへの参加： 25 名／年 - 英語開講科目の履修者： 100 名／年	

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

これにより、年間 200 名強を DD 候補生と位置付け、養成しようとするグローバル人材の卵として国際化の意義を自覚させたい。

②-1 学生に修得させる具体的能力のうち、一定の外国語力基準をクリアする日本人学生数の推移について

(i) 本プログラム計画において定める外国語力基準及び同基準をクリアする学生数に関する達成目標

単位：人（延べ人数）

外国語力基準		達成目標	
		中間評価まで (プログラム開始～2025 年度まで)	事後評価まで (プログラム開始～2028 年度まで)
【参考】本プログラム計画において派遣する日本人学生合計数		100	360
1	CEFR C1	5	20
2	CEFR B2	50	150
3	CEFR B1	45	190

(ii) 外国語力基準を定めた考え方

英検、TOEFL、IELTS など様々な英語外部検定試験が実施されているが、それらを統一的に扱うために CEFR レベルで英語力基準を設定した。また、英語運用能力としては、ある基準以上であれば高度グローバル人材に十分である、という判断は難しいため、CEFR レベルごとに達成学生数の目標を定める。

なお、1.5 年間留学する本学理工学研究科の DD プログラムにおいては、初期の英語運用能力の不足は比較的短期間で挽回できる一方、理工学分野の基礎学力の不足が学位取得の障壁となることを実感している。パートナー校ともこの見解は一致しており、現在運用している DD 協定に英語スコアの要件が含まれていない場合もある。

(iii) プログラム計画全体の目標達成に向けたプロセス（プログラム開始～2028 年度まで）

外部検定試験の対策は一定の効果があるものの、必ずしも真の英語運用能力の向上に直結するものではない。このため、本学理工学部では 2028 年度までに学部レベルの英語開講科目の数を 20 科目に拡大することで、英語を学ぶのではなく、専門科目を英語で学ぶ機会を増やしたい。なお、大学院での講義は International Graduate Program 科目として 407 科目中 90 科目が英語で開講されている。また、20 年近くにわたり運用してきた欧州との DD プログラムの修了生の一人を 2024 年度から専任教員として採用した。こうした DD 修了教員の積極的な発信を通して、身近なロールモデルを学生に示すことによって英語学習の意欲を高めたい。

(iv) 中間評価までの目標達成に向けたプロセス（プログラム開始～2025 年度まで） プログラム計画全体のプロセスの実現に向けて、中間評価の 2025 年度までに学部レベルの英語開講科目を 10 科目開講することを目指す。こうした取り組みへの準備はすでに始まっており、近年は外国籍教員を積極的に採用している。2023 年度には 3 名、2024 年度には 2 名を採用し、2024 年 4 月現在、理工学部には 10 名の外国籍の専任教員（非常勤、客員などは除く）が在籍している。
②-2 学生に習得させる具体的能力のうち、「②-1」以外について
(i) プログラム計画全体の達成目標（プログラム開始～2028 年度まで） 養成しようとするグローバル人材像のところでも述べたように、本事業を通して重点分野に高い専門性を有する高度グローバル人材を輩出することを目指しており、期待する能力と素養を提示した。各項目について、より具体的に以下に説明する。 1) 重点分野における高い専門性 Learning Agreement 型 DD では、特定の分野に関して 3 年間の学修時間が確保される。つまり、一般的な 2 年間の修士課程の 1.5 倍の時間を要するものであり、より高度な専門知識や学識が備わることが期待できる。特に、半導体、AI、量子、バイオといった重点分野は知識境界が急速に拡大している分野であり、確立された学問の活用にとどまらず、研究やプロジェクトでの活動を通じた境界拡大の一躍を担う高度な専門性を要する。欧州でのコースワークと本学理工学研究科での研究活動から成る 3 年間の学修の集大成である修士論文および修士論文審査会において、各重点分野の審査資格を有する教員 3 名以上で構成される審査委員会において高度な専門性の習得を確認する。 2) 母国語および英語を運用し、一対一に留まらず多人数での議論できる能力 最も基本的な会話の単位は一対一でのコミュニケーションである。これは言葉のキャッチボールであるため、母国語以外でも比較的難易度は低いと言われる。これに対して、多人数の中で会話に参加し、例えば主導的な立場で会話を展開するハードルは高く、母国語での会話や議論でも容易ではない。端的に言えば、リーダーシップを発揮する能力である。各重点分野で高い専門性を習得することを期待する Learning Agreement 型 DD 修了生には、多人数での議論に適切に参加し、自らの意見を主張できる能力を期待する。こうした能力は、修士論文審査会における複数教員との議論により確認する。 3) 地球規模の多様な重要課題に対して、専門性に立脚した対応策を提案できる能力 我々を取り巻く地球規模の課題は日々変化している。あるひとつの課題に対して、専門の異なる人材は違う視点で解決策を模索する。例えば、エネルギー問題に対して化石燃料の燃焼に関する熱力学的な解決策を提案する者もいれば、法律的な規制強化で解決策を提案する者もいることは容易に想像できる。Learning Agreement 型国際共同学位プログラムでは分野を特定して高い専門性を学修させるが、長期的に見ればその専門性に立脚してあらゆる課題に対して解決策を思考する能力を獲得すると換言できる。修士論文審査会などにおいて、具体的な研究内容にとどまらず、答えのない課題に対する考えを問うなど、自立した専門家としての素養を確認する。 4) 多文化、多言語への理解が深く、多様性に寛容で DE&I の本質を理解して思考する力 公民権運動から近年の LGBTQ+に至るまで、Diversity, Equity & Inclusion の考え方は時代とともに社会に広がり、2000 年代に入り組織論としてもその重要性が認識されてきた。一方で、我が国は比較的似通った環境で育ってきた人々で構成される社会であり、頭で認識していても多文化、多言語、多人種、多宗教、多国籍な社会を「知らない」個人が多い。本申請事業を通して視野を拡大し、様々な考え方に触れ、多様性の中の摩擦に打ち勝ち、DE&I の本質を理解して社会課題に向き合える思考力、想像力を持つことを期待する。本学理工学部・理工学研究科ではこうした DE&I 活動にも力を入れている (https://dei.st.keio.ac.jp/)。こうした能力は学生が人生に

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

わたって開発すべき能力で時代と共に変化すべきものである。本プログラムの終了時といった「点」で能力を判定することは難しいため、具体的な達成度合いのチェックにそぐわない。

5) 自身の活躍の場を流動的に探索できる力

世界は常に変化して、高度グローバル人材の活躍の場は一箇所にとどまることはない。特に自然科学分野の技術は近年凄まじいスピードで社会に浸透し、社会基盤や法制度の整備のスピードを凌駕している。日欧の超一流大学で3年間を過ごす Learning Agreement 型 DD の修了生は、こうした科学技術の進歩のスピードを感じ、修了後にも流動的に活躍の場を探索する能力を発揮することを期待する。Keio Double Degree Day などを活用して、DD 修了後のキャリアパスを継続的に追跡することで、これを評価する。

(ii) 中間評価までの達成目標（プログラム開始～2025 年度まで）

「養成しようとするグローバル人材像」のところでも述べたように、2025 年までを Learning Agreement 型国際共同プログラムに参加する学部学生の準備期間ととらえるならば、プログラム全体の達成目標に記載した能力および素養のうち、4) および 5) の重要性に対する理解を促進したい。人材像での記載の繰り返しになるが、そのために、2025 年度までに

- ・ グローバルリーダーシップ研修への参加：30 名／年
 - ・ 日本語と英語で深く議論するグローバルリーダーシップセミナーへの参加：60 名／年
 - ・ 欧州短期プログラムへの参加：25 名／年
 - ・ 英語開講科目の履修者：100 名／年
- の受講を達成したい。

③ 本プログラム計画において海外に留学する日本人学生数の推移【1 ページ以内】						
現状（2024年5月1日現在）※1				11 人		
(i) 日本人学生数の達成目標						
単位：人（延べ人数）						
プログラム計画全体の達成目標（プログラム開始～2028 年度まで）				360		
中間評価までの達成目標（プログラム開始～2025 年度まで）				100		
(上記の内訳)						
(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（プログラム計画全体、中間評価までの双方について）						
単位：人						
	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	合計
実際に渡航する学生	20	35	40	60	70	225
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生	15	30	30	30	30	135
合計人数	35	65	70	90	100	360
(a) 実渡航による交流						
本申請事業の大目標は Learning Agreement 型 DD への派遣、受入である。これまでの DD では概ね年間 10 名を欧州に派遣してきた。本申請事業を通して、学部生への留学エンカレッジプログラムを充実させることにより、最終的には DD 派遣数を倍増させ、DD 受入数と概ねバランスすることを目指す。 なお、修士 DD への準備は早い段階で意識し始めることが重要である。このため、留学エンカレッジプログラムは主に学部 1、2 年生を対象に充実させ、学生本人および保証人に理解を広げる計画である。このため、その効果が具体的に現れるのは 2027 年度以降と考えている。						
(b) オンラインによる交流						
オンラインのみによる交流は行わない。コロナ禍にオンラインによる国際交流プログラムを行ったが、学生からのフィードバックは否定的であった。2023 年度から対面での渡航を伴うプログラムを復活させた結果、多くの応募者を得ているため、本学においてはオンラインのみによる交流の需要は比較的低いと考えている。						
(c) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流						
修士 DD への挑戦をエンカレッジするために、様式 1 「2) ②海外の大学生・大学院生と協働する」に示した短期渡航を伴うプログラムを充実させ、DD 候補生の母数を拡大する。						

※現状は、プログラムの取組単位（全学、学部等）における 2024 年 5 月 1 日現在の人数。

（大学名：慶應義塾大学）（タイプ：A）

④ 本プログラム計画において受け入れる外国人学生数の推移【1 ページ以内】						
現状（2024年5月1日現在）※1	28 人					
(i) 外国人学生数の達成目標						
単位：人（延べ人数）						
プログラム計画全体の達成目標（プログラム開始～2028 年度まで）	260					
中間評価までの達成目標（プログラム開始～2025 年度まで）	95					
(上記の内訳)						
(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（プログラム計画全体、中間評価までの双方について）						
単位：人						
	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	合計
実際に渡航する学生	25	25	25	25	25	125
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生	15	30	30	30	30	135
合計人数	40	55	55	55	55	260
(a) 実渡航による交流						
欧州からの近年の DD 受け入れの実数（20～30 人／年）をベースに受け入れる外国人学生数を設定した。留学生に対するプロモーションはこれまで通り行い、本申請事業では主に日本人学生の派遣数の増加に資する取り組みを充実させる。これにより、その効果が期待できる 2027 年度以降から日本人学生の派遣数と外国人学生の受け入れ数が概ねバランスする計画である。						
(b) オンラインによる交流						
オンラインのみによる交流は行わない。						
(c) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流						
修士課程での DD への挑戦をエンカレッジするために、様式 1「2）②海外の大学生・大学院生と協働する」に示した短期渡航を伴うプログラムを充実させる。本申請事業による補助期間終了後の事業の自走を念頭に、このプログラムのパートナーは主にアジアの有力大学（延世大学、高麗大学、梨花女子大学、淡江大学、カセサート大学など）を想定している。このため、ここで数える外国人学生は欧州の学生ではない。						

※現状は、プログラムの取組単位（全学、学部等）における 2024 年 5 月 1 日現在の人数。

（大学名：慶應義塾大学）（タイプ：A）

⑤ 交流学生数について（2024年度はプログラム開始以後の人数）

（単位：人）

○ 実渡航の派遣期間と派遣数（短期・中期・長期別等）について適切な目標が設定されているか。（★）

※本事業は「学位もしくは単位取得を目的とした」国際交流プログラムであることを参加要件にしていることから、交流形態①～⑥の内、①～③のいずれか少なくとも一つは必ず実施する必要があります。交流形態が④～⑥のみである場合は、参加要件を満たしていないことになるので注意すること。
 なお、交流形態①～③のいずれかを実施したうえで、交流形態④～⑥を実施することは問題ありません。

(i) 本プログラムで計画している交流学生数

各年度の派遣及び受入合計人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		2028年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	35	40	65	55	70	55	90	55	100	55	360	260
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	20	25	35	25	40	25	60	25	70	25	225	125
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	15	15	30	30	30	30	30	30	30	30	135	135

(ii) 国内大学及び交流プログラムごとの交流学生数

交流形態	①	単位取得を伴う交流期間30日未満の交流
	②	単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流
	③	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流
	④	上記以外の交流期間30日未満の交流
	⑤	上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流
	⑥	上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流

学生別	A	学部生
	B	大学院生

実	実際に渡航する学生
オ	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生
ハ	実渡航とオンライン受講を行う学生（ハイブリッド）

1. 【代表申請大学】

大学名 慶應義塾大学																			
交流プログラム名 (相手大学名)	交流 方向	交流 形態	学生別	2024年度			2025年度			2026年度			2027年度			2028年度			合計
				実	才	ハ	実	才	ハ	実	才	ハ	実	才	ハ	実	才	ハ	
ダブルディグリープログラム (欧州DDパートナー15校)	派遣	③	B	10			10			10			15			20			65
ダブルディグリープログラム (欧州DDパートナー15校)	受入	③	B	25			25			25			25			25			125
グローバルリーダーシップセミナー研修 (高麗大,延世大,淡江大,UCSB他)	派遣	①	A			15			30			30			30			30	135
グローバルリーダーシップセミナー研修 (高麗大,延世大,淡江大,UCSB他)	受入	④	A			15			30			30			30			30	135
欧州短期プログラム (RWTH Aachen他、単位あり)	派遣	①	A	0			5			10			15			20			50
欧州短期プログラム (Ecole Centrale de Nantes他、単位あり)	派遣	②	A	5			5			5			5			5			25
欧州短期プログラム (INSA Lyon、IMT他)	派遣	④	A	5			15			15			25			25			85

2. 【国内連携大学等】

大学名																			合計
交流プログラム名 (相手大学名)	交流 方向	交流 形態	学生別	2024年度			2025年度			2026年度			2027年度			2028年度			
				実	才	ハ	実	才	ハ	実	才	ハ	実	才	ハ	実	才	ハ	
	派遣																		
	受入																		
	派遣																		
	受入																		

(大学名： 慶應義塾大学) (タイプ： A)

(iii) 本プログラムで計画している交流学生数（派遣・受入別 各内訳の集計）

【日本人学生の派遣】		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	合計
年度別合計人数	学生別	35	65	70	90	100	360
【交流形態別 内訳】							
① 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流		15	35	40	45	50	185
	実渡航	0	5	10	15	20	50
	オンライン						0
	ハイブリッド	15	30	30	30	30	135
② 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		5	5	5	5	5	25
	実渡航	5	5	5	5	5	25
	オンライン						0
	ハイブリッド						0
③ 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		10	10	10	15	20	65
	実渡航	10	10	10	15	20	65
	オンライン						0
	ハイブリッド						0
④ 上記以外の交流期間30日未満の交流		5	15	15	25	25	85
	実渡航	5	15	15	25	25	85
	オンライン						0
	ハイブリッド						0
⑤ 上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		0	0	0	0	0	0
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド						0
⑥ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0	0	0	0	0	0
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド						0

(大学名： 慶應義塾大学) (タイプ： A)

【外国人学生の受入】		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	合計
年度別合計人数	学生別	40	55	55	55	55	260
【交流形態別 内訳】							
① 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流		0	0	0	0	0	0
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド						0
② 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		0	0	0	0	0	0
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド						0
③ 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		25	25	25	25	25	125
	実渡航 B	25	25	25	25	25	125
	オンライン						0
	ハイブリッド						0
④ 上記以外の交流期間30日未満の交流		15	30	30	30	30	135
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド A	15	30	30	30	30	135
⑤ 上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		0	0	0	0	0	0
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド						0
⑥ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0	0	0	0	0	0
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド						0

(大学名： 慶應義塾大学) (タイプ： A)

(iv) 派遣・受入別 交流プログラム学生数の詳細

※①と②が同数程度となるように計画すること (★)

①日本人学生の派遣【計画】

年度	交流期間		派遣元大学	派遣先大学	派遣相手国	交流内容 (交流プログラム名等)	交流形態	学生別	交流学生数	(内訳)		
										実渡航	オンライン	ハイブリッド
24	2024.9	～ 2026.3	慶應義塾大学	DDパートナー校のいずれか	フランス、ドイツ、イタリア、ベルギー、スウェーデン、スペイン	ダブルディグリー	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	B	10	10		
24	2025.2	～ 2025.2	慶應義塾大学	淡江大学	台湾	グローバルリーダーシップ研修	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	15			15
24	2025.3	～ 2025.3	慶應義塾大学	ECN	フランス	欧州短期プログラム	②：単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	A	5	5		
24	2025.3	～ 2025.3	慶應義塾大学	INSA Lyon他	フランス	欧州短期プログラム	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	5	5		
25	2025.8	～ 2025.8	慶應義塾大学	高麗大学、UCSB	韓国、米国	グローバルリーダーシップ研修	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	15	15		
25	2025.8	～ 2025.9	慶應義塾大学	RWTH Aachen	ドイツ	欧州短期プログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	5	5		
25	2025.9	～ 2027.3	慶應義塾大学	DDパートナー校のいずれか	フランス、ドイツ、イタリア、ベルギー、スウェーデン、スペイン	ダブルディグリー	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	B	10	10		
25	2026.2	～ 2026.2	慶應義塾大学	淡江大学	台湾	グローバルリーダーシップ研修	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	15			15
25	2026.3	～ 2026.3	慶應義塾大学	ECN	フランス	欧州短期プログラム	②：単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	A	5	5		
25	2026.3	～ 2026.3	慶應義塾大学	INSA Lyon他	フランス	欧州短期プログラム	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	15	15		
26	2026.8	～ 2026.8	慶應義塾大学	高麗大学、UCSB	韓国、米国	グローバルリーダーシップ研修	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	15	15		
26	2026.8	～ 2026.9	慶應義塾大学	RWTH Aachen	ドイツ	欧州短期プログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	10	10		
26	2026.9	～ 2028.3	慶應義塾大学	DDパートナー校のいずれか	フランス、ドイツ、イタリア、ベルギー、スウェーデン、スペイン	ダブルディグリー	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	B	10	10		
26	2027.2	～ 2027.2	慶應義塾大学	淡江大学	台湾	グローバルリーダーシップ研修	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	15			15
26	2027.3	～ 2027.3	慶應義塾大学	ECN	フランス	欧州短期プログラム	②：単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	A	5	5		
26	2027.3	～ 2027.3	慶應義塾大学	INSA Lyon他	フランス	欧州短期プログラム	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	15	15		
27	2027.8	～ 2027.8	慶應義塾大学	高麗大学、UCSB	韓国、米国	グローバルリーダーシップ研修	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	15	15		
27	2027.8	～ 2027.9	慶應義塾大学	RWTH Aachen	ドイツ	欧州短期プログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	15	15		
27	2027.9	～ 2029.3	慶應義塾大学	DDパートナー校のいずれか	フランス、ドイツ、イタリア、ベルギー、スウェーデン、スペイン	修士課程ダブルディグリー	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	B	15	15		
27	2028.2	～ 2028.2	慶應義塾大学	淡江大学	台湾	グローバルリーダーシップ研修	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	15			15
27	2028.3	～ 2028.3	慶應義塾大学	ECN	フランス	欧州短期プログラム	②：単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	A	5	5		
27	2028.3	～ 2028.3	慶應義塾大学	INSA Lyon他	フランス	欧州短期プログラム	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	25	25		
28	2028.8	～ 2028.8	慶應義塾大学	高麗大学、UCSB	韓国、米国	グローバルリーダーシップ研修	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	15	15		
28	2028.8	～ 2028.9	慶應義塾大学	RWTH Aachen	ドイツ	欧州短期プログラム	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	20	20		
28	2028.9	～ 2030.3	慶應義塾大学	DDパートナー校のいずれか	フランス、ドイツ、イタリア、ベルギー、スウェーデン、スペイン	ダブルディグリー	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	B	20	20		
28	2029.2	～ 2029.2	慶應義塾大学	淡江大学	台湾	グローバルリーダーシップ研修	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	15			15
28	2029.3	～ 2029.3	慶應義塾大学	ECN	フランス	欧州短期プログラム	②：単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	A	5	5		
28	2029.3	～ 2029.3	慶應義塾大学	INSA Lyon他	フランス	欧州短期プログラム	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	25	25		

②外国人学生の受入【計画】

年度	交流期間		派遣元大学	派遣相手国	派遣先大学	交流内容 (交流プログラム名等)	交流形態	学生別	交流学生数	(内訳)		
										実渡航	オンライン	ハイブリッド
24	2024.8	～ 2024.8	高麗大学	韓国	慶應義塾大学	グローバルリーダーシップ研修	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	15	15		
24	2024.9	～ 2026.7	DDパートナー校のいずれか	フランス、ドイツ、イタリア、ベルギー、スウェーデン、スペイン	慶應義塾大学	ダブルディグリー	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	B	25	25		
25	2025.8	～ 2025.8	高麗大学、UCSB	韓国、米国	慶應義塾大学	グローバルリーダーシップ研修	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	30	30		
25	2025.9	～ 2027.7	DDパートナー校のいずれか	フランス、ドイツ、イタリア、ベルギー、スウェーデン、スペイン	慶應義塾大学	ダブルディグリー	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	B	25	25		
26	2026.8	～ 2026.8	高麗大学、UCSB	韓国、米国	慶應義塾大学	グローバルリーダーシップ研修	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	30	30		
26	2026.9	～ 2028.7	DDパートナー校のいずれか	フランス、ドイツ、イタリア、ベルギー、スウェーデン、スペイン	慶應義塾大学	ダブルディグリー	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	B	25	25		
27	2027.8	～ 2027.8	高麗大学、UCSB	韓国、米国	慶應義塾大学	グローバルリーダーシップ研修	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	30	30		
27	2027.9	～ 2029.7	DDパートナー校のいずれか	フランス、ドイツ、イタリア、ベルギー、スウェーデン、スペイン	慶應義塾大学	ダブルディグリー	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	B	25	25		
28	2028.8	～ 2028.8	高麗大学、UCSB	韓国、米国	慶應義塾大学	グローバルリーダーシップ研修	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	30	30		
28	2028.9	～ 2030.7	DDパートナー校のいずれか	フランス、ドイツ、イタリア、ベルギー、スウェーデン、スペイン	慶應義塾大学	ダブルディグリー	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	B	25	25		

⑥ 海外相手大学との単位互換について

○ 海外相手大学との単位互換について適切な目標が設定されているか。

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

単位互換を実施する 海外相手大学数	2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		2028年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	25

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

学生別	A	学部生
	B	大学院生

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名： 慶應義塾大学】

相手大学名		学生別	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	合計
DDパートナー校のいずれか	認定者数	B	10	10	10	15	20	65
	認定単位数	B	4	4	4	4	4	20
	認定者数							0
	認定単位数							0
	認定者数							0
	認定単位数							0
年度別認定者数合計			10	10	10	15	20	65
年度別認定単位数合計			4	4	4	4	4	20

2. 国内連携大学 【大学名： 】

相手大学名		学生別	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	合計
	認定者数							0
	認定単位数							0
	認定者数							0
	認定単位数							0
	認定者数							0
	認定単位数							0
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0	0

(大学名： 慶應義塾大学)

(タイプ：

A

)

⑦ 実渡航前のオンライン教育を実施する場合、そのオンライン教育を受けた学生数について

○実渡航前のオンライン教育を実施する場合、そのオンライン教育を受けた学生数（分野別等）について適切な目標が設定されているか。
 (★)

1. 代表申請大学 【大学名： 慶應義塾大学】

交流プログラム名 (相手大学名)		分野	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	合計
グローバルリーダーシップ研 修（高麗大学、UCSB）	実渡航した学生		10	10	10	15	20	65
	上記の内、実渡航 前にオンライン教 育を受けた学生		0	0	0	10	15	25
	実渡航した学生							0
	上記の内、実渡航 前にオンライン教 育を受けた学生							0
	実渡航した学生							0
	上記の内、実渡航 前にオンライン教 育を受けた学生							0
実渡航した学生数合計			10	10	10	15	20	65
上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生合計			0	0	0	10	15	25

2. 国内連携大学 【大学名： 】

交流プログラム名 (相手大学名)		分野	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	合計
	実渡航した学生							0
	上記の内、実渡航 前にオンライン教 育を受けた学生							0
	実渡航した学生							0
	上記の内、実渡航 前にオンライン教 育を受けた学生							0
	実渡航した学生							0
	上記の内、実渡航 前にオンライン教 育を受けた学生							0
実渡航した学生数合計			0	0	0	0	0	0
上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生合計			0	0	0	0	0	0

(大学名： 慶應義塾大学

)

(タイプ：

A

)

⑧ EU諸国等との大学との間で実施する協働/共修学習活動数について

○ EU諸国等との大学との間で実施する協働/共修学習活動数について適切な目標が設定されているか。(★)

	協働/共修学習活動 名称	開催年月	開催回数	参加人数	参加国
1	グローバルリーダーシップセミナー 研修（淡江大学）	毎年2月	年1回	30	台湾
2	グローバルリーダーシップセミナー 研修（高麗大学、延世大学）	毎年8月	年1回	30	韓国
3	グローバルリーダーシップセミナー 研修（UC Santa Barbara）	毎年8月	年1回	20	米国
4	Keio-Aachenサマースクール	毎年8月	年1回	20	ドイツ
5					

(大学名： 慶應義塾大学

)

(タイプ：

A

)

⑨ 任意指標【2 ページ以内】					
【現状分析及び目標設定】					
特に設定しない。					
(設定指標)					
	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
(指標 1)					
(指標 2)					
(指標 3)					
(指標 4)					
(指標 5)					
【計画内容】					

⑩ 加点事項に関する取組【2 ページ以内】
【実績・準備状況】 1) 海外相手大学との戦略的な国際ネットワークやパートナーシップの構築 本学理工学部・理工学研究科は 2005 年より欧州大学との修士 DD プログラムをスタートさせ、現在欧州 6 カ国 15 大学のパートナーを持つ。2020 年からは有力な提携先であるフランス Ecole Centrale de Nantes を中心とした欧州 3 大学と本学理工学研究科で、カリキュラムを共同開発することでパートナー校がカリキュラムを相補的に提供する 2 年間の修士学位 DD である JEMARO (Japan-Europe Master on Advanced Robotics) プログラムをスタートさせた。また、欧州を中心とした高等教育モビリティネットワークのひとつである T.I.M.E. Association の一員として 2007 年から国際共同学位プログラムの議論の中心にいる。 2) 教職員交流の実施 2020 年にスタートした JEMARO では、入試、運営、単位認定、成績評価などを欧州 3 大学とともに合同で行なっている。このため、教職員は年間 3 回の運営会議を実施しており、4 大学の教職員はオンラインでも日常的に協働している。また、Ecole Centrale de Nantes と Warsaw University of Technology からは複数回に渡り 1 週間程度の職員研修を受け入れている。 3) 他大学の参考となるアウトカム指標 派遣数、受入数にも増して国際プログラムで重要なのは、修了生のキャリアパスである。本学理工学部・理工学研究科では、20 年にわたる DD 運用を通して、修了後のキャリアを可能な限りトレースしてきた。欧州からの DD 参加生 361 名のうち少なくとも 71 名が日本国内で進学、就職している。一方、日本人 DD 参加生 177 名のうち海外で進学、就職したものは 9 名であることを把握している。 4) 双方の文化及び言語について高いレベルで習得する計画 これまで運用してきた従来型 DD は、学生交換協定に基づいて双方のカリキュラムを尊重している。このため、パートナー校によって現地の語学や文化に関する科目履修が必修である否かはまちまちであった。2020 年にスタートした JEMARO では、現地の言語に関する科目の履修を必修としており、本学理工学研究科においても、大学院生向けの日本語クラス（初級～上級）を設置している。また、同窓会組織である三田会による日本文化体験や日本での生活サポートも無料で提供されている。 【計画内容】 1) 海外相手大学との戦略的な国際ネットワークやパートナーシップの構築 欧州を中心とした国際共同学位プログラムの議論は DD、JD を経て Joint Degree Label 型国際共同学位へと進化しつつある。現在、欧州では JDL 型国際共同学位のパイロットスタディを通して、その可能性を検証している。いずれにしても、学生交換協定をベースとした従来型 DD と比較して、今後の国際共同学位プログラムはパートナー校とのより緊密な協働が基本となるのは確実である。本申請事業を通して、パートナー校と事前に特定分野での Learning Agreement の協議を促進することで、協働するパートナーとしての関係性をより強固なものに発展させる計画である。

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

2) 教職員交流の実施

特定分野での Learning Agreement 型 DD の実装は、パートナー校との運用上の協働にとどまらず、双方において当該分野の教員の認知度が向上するメリットも持つ。特に、学位取得を目指す DD プログラムであることから専門的な科目群やプロジェクトを双方で認識することとなる。パートナー校との教職員相互派遣（様式 1 の 4）①）による FD 活動も計画している。

3) 他大学の参考となるアウトカム指標

学生の派遣数、受入数は直接的にわかりやすいアウトプットであるが、重要なのはその後のキャリアである。本申請事業の計画では、我が国が地球規模での頭脳循環ネットワークで責任ある役割を果たすために Learning Agreement 型 DD 修了生に学位記と共に Double Degree Certificate を発行し、修了生の学修内容を明確化することで、修了後にジョブ型採用が中心の欧州において日本人が活躍しやすい環境を整える。これにより、新卒一括採用以外のキャリアパスを進む修了生を増加させる。

4) 双方の文化及び言語について高いレベルで習得する計画

本プログラム計画は重点分野に特化した Learning Agreement 型国際共同学位プログラムであるが、「養成しようとするグローバル人材像」に示したように、単に高い専門性の獲得を目指すのではなく、多文化、多言語、多様な課題、流動性などに対する能力や素養を期待している。このため、学生には留学先での現地の言語を履修させることを基本とする。本学で受け入れる留学生には初級から上級まで日本語クラスが準備されており、加えて、同窓会組織による日本文化体験や日本での生活サポートが引き続き提供される計画である。

外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備【①～③合わせて3ページ以内】
① 日本人学生の派遣のための環境整備
【実績・準備状況】
2005 年に開始した DD プログラムにより蓄積された経験をベースに学生支援を行っている。本学理工学部・理工学研究科の学生課国際担当には留学相談に対応できるスタッフが常勤している。毎年 6 月に 1, 2 年生を対象とした留学フェアを開催し、各種留学プログラムを紹介するほか、DD プログラムに特化した説明会を年 3 回開催している。留学報告書をウェブサイトに掲載し、より多くの学生が留学を検討するよう広報を行っている。 渡航前の学生に対しては、危機管理に加え、先方での学習内容、語学の準備、渡航の手続き等に関してオリエンテーションを行っている。フランス語で学位取得を目指す DD プログラムへ参加する学生に対しては、現地での学習が開始するまでの徹底したフランス語学習を義務付けている。また、派遣先では企業でのインターンシップがカリキュラムの一部として義務付けられているが、受け入れ校のポリシーに従って、日本からは特段のサポートを行わない。ただし、派遣学生の履修状況が思わしくない場合や生活に不安を抱えている状態においては先方の受入コーディネータならびに学生と本学のコーディネータの間で密に連絡を取り、必要に応じて現地を訪問するなどしてケース毎に問題に対処してきている。 各種留学プログラムについて、参加学生による報告書を本学学生がアクセスできるポータルに掲載している。これから留学に行く学生には、留学先の選定、渡航準備に、留学中の学生には渡航先での生活・学業・進路選択の面で貴重な情報として活用されている。
【計画内容】
上記に加えて、以下の点を中心に環境整備に努めることを計画している。 ・ 協定校が増えて留学先の選択肢が増えた一方、それぞれの大学で何が学べるか、どのような留学生活になるかの情報が少ない大学もある。Learning Agreement 型 DD で学習分野を明確化するなどより明確な情報に提示できるようにする。 ・ 単一文化単一言語の環境で育ってきた多くの学生にとっては、海外大学との DD プログラムへ挑戦することに心理面、語学面で障壁を感じているのが現状である。低学年から異文化や多言語の環境を経験する機会を提供することで、段階的な準備を経て、DD プログラムに挑戦する学生層の充実を図る。 ・ 派遣生の増加に備え、これまで個別にメールのやりとりで進めていた手続きのオンライン化を進め、効率よく管理を行うようにし、プログラムの充実に充てる時間を増やす。 ・ これまで行ってきた留学前・留学中の学生を対象とした支援に加え、KDDD の開催等、現役学生と修了生の交流を創出するために、プログラム修了生への働きかけを検討する。
② 外国人学生の受入のための環境整備
【実績・準備状況】
2003 年度に設置された「先端科学技術国際コース (IGP)」の運用で蓄積された経験をベースに、留学生の在籍管理を行っている。具体的には、学生課国際担当には英語で相談に対応できるスタッフが常勤し、奨学金情報の提供、言語・生活サポートを行っている。在留資格については全学的な体制のもと、適切に管理・支援を行い、年 2 回の入国管理局への報告を行っている。履

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

修体系・順序、アカデミックカレンダー、シラバス等の学事情報はすべて英語で提供しており、留学生専門の学習指導教員をおくなど、留学生がスムーズに本学での学習活動が進める環境を整えている。日本語学習を希望する留学生は本学の別科日本語研修課程の設置講座を受講することができる。IGP に入学する留学生や交換留学生は少なくとも来日当初の 1 年間はキャンパスから徒歩圏内にある留学生寮への居住が可能であり、管理人に加えてレジデント・アシスタントを務める日本人大学院生から生活支援を受ける。学習上の課題を抱える学生については、本国のコーディネータと連携し、対応に当たっている。

インターンシップおよび就職に関する情報は学生課学生生活担当が提供している。様式 1④でも述べたように、欧州からのこれまでの DD 修了生 361 名のうち少なくとも 71 名は日本国内で就職・進学しており、インターンシップや就職の支援が一定の効果を挙げていると考えている。

【計画内容】

上記に加えて、以下の点を中心に環境整備に努めることを計画している。

- ・ これまで行ってきた留学前・留学中の学生を対象とした支援に加え、KDDD の開催等、現役学生と修了生の交流の機会を創出し、ネットワーキングの場を提供するべくプログラム修了生への働きかけを検討する。
- ・ 留学生の増加に備え、留学生寮の拡充、留学生が相談できるカウンセラーの拡充等を検討する。

③ 関係大学間の連絡体制の整備

【実績・準備状況】

協定校学生交換関係者とは、定期的にメール等で必要情報を提供し合い、連携を円滑に行う体制を整えている。必要に応じ Web 会議システム等を併用し密なコンタクトをとっている。T.I.M.E.加盟校の担当者とは年一回開催される T.I.M.E. Association 年次総会場で全体的な情報交換を行っている。全学の「海外副指導教授制度」を活用し、協定校教員が本学学生の指導や訪問の機会を提供している。また、協定校と Erasmus Mundus 協定を締結し、学生交換と並行して職員交流を行い、過去 3 年間に 2 名の職員を 1 週間受け入れ、相互理解を図った。ジョイントプログラムである JEMARO については、年 3 回の合同会議を対面並びにオンラインで実施している。また、本学ロンドンオフィスには専任職員が常駐しており、現地で不測の事態が発生した場合には即時に対応する体制がとられている。

【計画内容】

上記に加えて、以下の点を中心に関係第間の連携体制の整備に努めることを計画している。

- ・ T.I.M.E. Association 年次総会に加えて、EAIE、NAFSA、APAIE などの国際教育関係者が出席する会合に随時出席し、協定校の担当者との直接的なコミュニケーションを図ることで協定校との間の情報共有を進め、適切な学生支援につなげる。
- ・ 協定校の関係者を本学に招聘するとともに、協定校への訪問も積極的に行い、教職員交流の機会を多く設けることで信頼関係を構築する。
- ・ 「三田会」を中心として卒業生ネットワークが活発である本学においては、同窓会組織の立ち上げは卒業生が主体となり自発的に行われることを期待する。

- ・ 本学理工学研究科と交流の歴史がもっとも古いアーヘン工科大学とは、2026 年に交流 70 周年を迎える。また、2025 年は 2005 年に DD を始めてから 20 年の節目を迎える。過去の交流の振り返りや交流に携わった関係者・参加者との連携を探りながら、次なる 15 年に向け、新しい世代を中心としたネットワーク形成の働きかけを行う。

プログラムの実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及【①、②合わせて2ページ以内】
① プログラムの実施に伴う大学の国際化
【実績・準備状況】
本学理工学研究科は欧州有力大学と20年近くにわたり3年間DDプログラムを運用してきた。学生の十分な学習時間を確保したDDプログラムであるとともに、参画に加盟校2校からの推薦を必要とするT.I.M.E. Associationの枠内でのDDプログラムであることから、学習の質、量ともに国際的に保証されたDDプログラムを運用している。 学生課国際担当には英語によるコミュニケーションが可能な職員が複数常駐している。また、欧州パートナー校からstaff exchangeとして1週間、本学で職員を受け入れるなど、職員の能力開発に資する協働体制を構築している。 国際担当は各キャンパスに配置され、国際交流や学生の派遣・受入に関する実務を担当しているが、全学的な国際広報や大学間交流などはメインキャンパスにある国際センターが担当し、国際業務全般の負荷を分散している。また、留学生の入試に関しては学生課学事担当および入試担当が担っており、業務分担体制が確立している。さらに、本学はロンドンオフィスを設置しており、専任職員が常駐している。欧州圏の大学を中心に協働体制の構築やDDプログラムなどで欧州に滞在する本学の学生の緊急時サポートなどを行なっている。 分散した業務体制ではあるものの、全学の教職員はSlack（ビジネスコミュニケーションアプリ）を利用しており、必要に応じてリアルタイムに情報を共有できる体制も整えている。
【計画内容】
本申請事業を通して、既存DDプログラムにパートナー校との事前協議に基づくLearning Agreementを付与することで時代に合わせた重点分野のDDパッケージを相補的に構築する新たなステージへと発展させる。これにより、本学の学生だけでなく欧州パートナー校の学生も重点領域に対してより高度な専門知識を獲得する一助となる。相補的なDDパッケージの一翼を担うことにより、欧州における国際共同学位の提供に責任ある役割を果たすことができ、欧州大学ネットワークの中で本学が果たす役割の拡大が期待できる。 DDプログラムの充実に加えて、留学エンカレッジプログラムにおいてはアジアの大学との協働により、共に国際化を促進する。特に韓国有力私立大学である延世大学、高麗大学とは早稲田大学とともに4大学の学長が定期的に各大学をめぐり会談するシャトル交流を行っており、ライバルでありながら学生同士が切磋琢磨して共に成長する機運が醸成されている。東南アジアの大学との連携においても東アジアや欧州を目指す際のハブとして慶應義塾大学が役割を果たしたい。
② 国内外への情報提供の方法・体制、成果の普及
【実績・準備状況】
大学のグローバル化の観点から国内外に向けて公表が望まれる項目(中央教育審議会国際的な大学評価活動に関するWG策定)については、本学webサイト(https://www.keio.ac.jp/en/about/global/)にて戦略的な情報発信を行っている。 また、本申請課題のベースとなる従来型DDプログラムについては、本学理工学部留学・海外研修webサイト(https://www.st.keio.ac.jp/students/ic/)にて情報発信している。いずれも日本

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

語および英語で情報を提供している。

【計画内容】

「年度別実施計画」でも後述するが、本学理工学部留学・海外研修 web サイトには短期研修プログラムと DD プログラムなどの長期プログラムの情報が提供される一方、これらの関係や、学生の海外留学に対する準備レベルに応じたモデルケースの提示などが不足しているため、本申請事業を通して、留学・海外研修 web サイトを充実して一層効率的な情報発信を図る。また、Learning Agreement 型 DD プログラムを広報し、本学と欧州パートナー校が相補的に重点分野の教育・研究を担い、高い専門性を有する高度グローバル人材を育成している趣旨を示す。

他大学、他機関への情報発信としては、T.I.M.E. 年次総会や EAIE、NAFSA、APAIE など、国際教育関係者が出席する会合の場で積極的に本学の取り組みを発信することを計画している。これにより、国際教育に積極的な教育機関や各国の教育関連政府機関等への情報発信を効率的に行う。

産業界への情報提供としては、本申請事業で計画している KDDD と Double Degree Certificate が有効と考えている。KDDD では DD 修了生、DD 現役生、DD 候補生に加えて、DD 修了生を積極採用している実績のある企業を中心に企業を招待する。高度グローバル人材と企業の頭脳循環ネットワークの機会だけでなく、2040 年に向けた本学理工学部・理工学研究科の国際共同学位戦略を共有し、本申請事業の補助期間終了後は賛助企業として共に我が国の教育プログラムの国際化を支えることを期待する。また、DD 修了時に発行予定の Double Degree Certificate では、DD 修了生がプログラムを通して学修した内容や獲得したスキル、インターンシップや学術会議の参加歴などを記載し、各修了生の学術的なポートフォリオとして発行する。修了生はこれをキャリア形成の一助として、特に海外でのジョブ型採用の際のアピール材料として企業に情報提供できる体制を整える。

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	エコールサントラルグループ (フランス)
① 交流実績 (交流の背景)	
フランス国内の 5 都市にある理工系グランゼコール (エコールサントラル) の教育事業を仲立ちとした共同体であり、そのなかのナント校 (Ecole Centrale de Nantes、ECN) と本学は 1987 年に学術交流協定を締結して以来多角的な交流事業を行ってきた。2005 年に Ecole Centrale de Nantes 以外の 3 校 (パリ、リヨン、リール) を合わせた 4 校と DD 協定を締結した (その後 2008 年にマルセイユ校が加盟)。2024 年までに日本人学生の派遣 104 名、フランスからの留学生 251 名を受け入れており、現在、本学理工学部・理工学研究科の国際プログラムのなかで中核をなしている。Ecole Centrale de Nantes とは、JEMARO (Japan-EU 高度ロボティクスマスタプログラム) という DD のジョイントプログラムを 2020 年に開始し、2024 年までに 21 名 (本学からの派遣生 4 名を含む) が Ecole Centrale de Nantes 並びに本学での課程を修了する見込みである。	
② 交流に向けた準備状況	
2005 年以来、学部修士一貫型の DD プログラムの運用が順調に進んでおり、前出の JEMARO プログラムをはじめそこから派生したプログラムや学術交流も盛んに行われている。ことに JEMARO プログラムを通じ、国際共同学位プログラムの運営についても相互理解を深め、欧州の動向について共に情報を収集してきた。海外副指導教授制度を活用したクロスアポイントで 2023 年 3 月、7 月に Ecole Centrale de Nantes の国際部門責任者に着任した Vincent Fremont 教授が本学を訪問している。同教授と本学教員が共同で EAIE (European Association for International Education) や APAIE (Asia Pacific Association for International Education) といった国際教育会議において、国際共同学位の取り組みについて発表を行い、欧州と日本の間の国際共同学位について活発に議論を行っている。また、職員の交流も行っており、2022 年 7 月、2024 年 5 月には Ecole Centrale de Nantes 職員を各 1 週間 Erasmus Mundus 協定に基づく Staff Exchange の一貫で受入を行っている。今後も、強固な信頼関係に基づき、新しい取り組みを行っていく。 当プログラムにおいては、DD プログラムの実施、セメスター単位の交換留学、エンカレッジプログラムとしての短期研修の派遣を予定している。	

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	アーヘン工科大学 (ドイツ)
① 交流実績 (交流の背景)	
本学とアーヘン工科大学は 1956 年の学術交流締結以来、相互の研究者交流を行ってきた。その後、2003 年に学生交換協定が新たに締結され、研究者のみならず学生の相互交換も行われている。2006 年には交流締結 50 年を記念する祝賀会が先方学長の主催で行われ、本学からは学部長以下 10 名の理工学部教員と約 20 名の大学院生が出席した。学生の相互交流を多角的に促進する目的で、2007 年から先方で本学理工学部学生を対象としたサマースクールが 8 月の 3 週間、2015 年からスプリングスクールが 3 月に 3 週間にわたり開講されており、2024 年夏までに 400 名弱の学生が参加した。2009 年度から、サマースクールに参加した学生が大学院に進学し、再度アーヘン工科大学の研究室で研究滞在をする際の奨学制度が発足した。このように学部生対象の導入プログラムから大学院生対象の発展的な内容へと系統的にデザインされた交流プログラムが順調に機能している。 近年も、2024 年 2 月にアーヘン工科大学学長をはじめとする 10 名の訪問団が本塾を訪問し、塾長や本研究科教員と今後の研究・学生交流の発展について協議を行った。	
② 交流に向けた準備状況	
60 年以上にわたる学術交流実績に加えて、2007 年から開始されたサマースクールが日本人学生にとって導入教育として極めて順調に機能している。2024 年 2 月に双方の学長が対面で会談した際にも、交流 70 周年となる 2026 年には記念イベントを行い、今後の交流を一層活発にすること約束している。 当プログラムにおいては、DD プログラムの実施、セメスター単位の交換留学、エンカレッジプログラムとしての短期研修の派遣を年 2 回春と夏に予定している。	

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	ミュンヘン工科大学 (ドイツ)
① 交流実績 (交流の背景)	
2007 年に学術交流協定および学生交換協定を締結し、管理工学の分野で交換留学生を 2024 年まで 20 名を受入、10 名を派遣している。2011 年度から物理学の分野に特化した修士課程 DD プログラムを本学理工学研究科と開始し、2024 年まで 5 名の受入、7 名の派遣実績がある。2023 年には国際教育に関する会議 EAIE で、DD 担当の教職員が面会し、今後の交流の発展について協議を行った。	
② 交流に向けた準備状況	
ドイツ国内で極めて優れた研究業績が認められ Excellenz Initiativ に最初に選ばれて以来、大学の国際化に特に力を入れている。本学とは 2006 年から DD 協定の締結可能性について意見交換を行い、2011 年度に物理学分野に限定した DD プログラムを開始した。他のドイツ国内大学と同様に大規模な工科大学では研究所の独立性が高いが、物理学科におけるプログラムにより信頼関係を醸成したことから、物理学以外の分野での協定締結の可能性を検討している。 当プログラムにおいては、DD プログラムならびにセメスター単位の交換留学の実施を予定している。	

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	ミラノ工科大学 (イタリア)
① 交流実績 (交流の背景)	
2008 年に学術交流協定を締結し、2010 年に修士課程 DD プログラムの協定を締結した。2024 年まで DD では 18 名の受入、18 名の派遣、学期単位の交換では 32 名の受入、9 名の派遣実績がある。 ミラノ工科大学は T.I.M.E. Association の発足メンバー校である。2006 年に国際交流責任者の来訪を受けた他、2015 年にはミラノ工科大学学長であり T.I.M.E. Association President (当時) の Prof. Giovanni Azzone ら DD プログラム関係者が本学を訪問し、DD プログラムに関するシンポジウムにて講演を行った。その後も、T.I.M.E. Association 年次総会等で面会をしている。	
② 交流に向けた準備状況	
2023 年には本学 DD 担当教職員がミラノ工科大学を訪問し、今後も継続的に交流を発展させていく方向で協議を行った。ミラノ工科大学は DD をはじめとした国際プログラムの開発において欧州の中でも進んでおり、イタリアを代表するトップクラスの理工系大学である。今後も学生の相互派遣が活発に行われることが期待される。 当プログラムにおいては、DD プログラムならびにセメスター単位の交換留学の実施を予定している。	

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

相手大学名 (国名)	ジェノヴァ大学 (イタリア)
---------------	----------------

① 交流実績 (交流の背景)

ジェノヴァ大学は、JEMARO (Japan-EU 高度ロボティクスマスタプログラム) コンソーシアムのパートナー校である。JEMARO プログラムは、欧州パートナー校 (エコールサントラルナント (フランス)、ジェノヴァ大学 (イタリア)、ワルシャワ工科大学 (ポーランド)) 3 校との連携で設定されたロボティクスに関する修士課程の DD プログラムであり、2020 年にコンソーシアム協定を締結した。1 年目はジェノヴァ大学を含む欧州パートナー校のいずれか、2 年目を本学理工学研究科にて就学し、2 年間で修了する。2024 年までに 62 名の受入、16 名の派遣実績がある。日欧両方の指導教員による共同指導体制を構築し、修了学生が海外学会にて共同論文発表を行った例もある。

2023 年には JEMARO Days がジェノヴァ大学で開催され、教職員が 4 名訪問した。年 3 回の合同運営会議に加え定期的に教職員が連絡を取り合い、連携をとっている。2022 年にはジェノヴァ大学教職員が本学開催の運営会議に参加した。

② 交流に向けた準備状況

当プログラムにおいては、JEMARO プログラムにおける DD の実施を予定している。JEMARO プログラムは Erasmus Mundus Joint Masters に 2019 年から 2025 年の期間で採択されている。当採択期間終了後もプログラムの継続を合意しているが、主に奨学金の支援を継続できるよう、欧州側から Erasmus Mundus Joint Masters への再応募について協議している。

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

相手大学名 (国名)	ワルシャワ工科大学 (ポーランド)
---------------	-------------------

① 交流実績 (交流の背景)

ワルシャワ工科大学 (ポーランド) は、JEMARO (Japan-EU 高度ロボティクスマスタプログラム) コンソーシアムのパートナー校である。JEMARO プログラムは、欧州パートナー校 (エコールサントラルナント (フランス)、ジェノヴァ大学 (イタリア)、ワルシャワ工科大学 (ポーランド)) 3 校と連携で設定されたロボティクスに関する修士課程の DD プログラムであり、2020 年コンソーシアム協定を締結した。1 年目はワルシャワ工科大学を含む欧州パートナー校のいずれか、2 年目を本学理工学研究科にて就学し、2 年間で修了する。2024 年までに 62 名の受入、16 名の派遣実績がある。日欧両方の指導教員による共同指導体制を構築し、修了学生が海外学会にて共同論文発表を行った例もある。年 3 回の合同運営会議に加え定期的に教職員が連絡を取り合い、連携をとっている。

2023 年にはワルシャワ工科大学で開催の運営会議に本学教職員が 4 名参加した他、2 月に別途本学教員 1 名も訪問している。2023 年 11 月・2024 年 1 月にワルシャワ工科大学教員を 1 名ずつ招聘した他、2024 年 1 月には本学理工学部長が訪問し、今後の連携について協議を行った。

② 交流に向けた準備状況

当プログラムにおいては、JEMARO プログラムにおける DD の実施を予定している。JEMARO プログラムは Erasmus Mundus Joint Masters に 2019 年から 2025 年の期間で採択されている。当採択期間終了後もプログラムの継続を合意しているが、主に奨学金の支援を継続できるよう、欧州側から Erasmus Mundus Joint Masters への再応募について協議している。

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	ブリュッセル自由大学 (ベルギー)
① 交流実績 (交流の背景)	
2012 年 6 月に先方が本学理工学部訪問。その後 2012 年 10 月に本学教員がブリュッセル自由大学を訪問し、学生交換協定の締結に至った。その後も T.I.M.E. 年次総会で議論をし、2019 年に DD 協定を締結した。2024 年までに DD では 7 名の受入、1 名の派遣、学期単位の交換では 17 名の受入の実績がある (派遣実績はなし)。	
② 交流に向けた準備状況	
2022 年 12 月にはブリュッセル自由大学副学長はじめ 4 名の教職員の表敬訪問を受け、今後の交流連携について協議を行った。2023 年 10 月には本学理工学部国際交流委員長が、ブリュッセル自由大学を訪問し、T.I.M.E. Association 加盟校の DD プログラム修了生の進路・トラッキングに関するプロジェクトについて連携を行うことを協議した。 ベルギーの大学との交流は比較的新しく、派遣の実績は多くない。フランス語とオランダ語の 2 つの言語が公用語として使われており、その他にもルクセンブルグ語・ドイツ語などが飛び交う多言語地域である。このように様々な言語や人種が集まるブリュッセルにおいて留学することは、フランス等に留学するのとはまた違った視点で研究活動を行うことができる。今後、留学先としての紹介を充実させることで、継続的な派遣につなげていくことが期待されている。 当プログラムにおいては、DD プログラムならびに semester 単位の交換留学の実施を予定している。	

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	ルーヴァンカソリック大学 (ベルギー)
① 交流実績 (交流の背景)	
2013 年に学生交換協定、2014 年に DD 協定を締結した。2024 年までに DD では 5 名の受入、4 名の派遣、学期単位の交換では 21 名の受入、1 名の派遣実績がある。2024 年も 1 名の DD 生の派遣を予定している。	
② 交流に向けた準備状況	
これまでも定期的に T.I.M.E. Association 年次総会等で面会をしているが、2023 年には国際教育に関する会議 EAIE で、DD 担当の教職員が面会し、双方が派遣する学生の就学状況についての情報を交換するとともに、今後の交流の継続について協議を行った。 当プログラムにおいては、DDプログラムならびにセメスター単位の交換留学の実施を予定している。	

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	王立工科大学 (スウェーデン)
① 交流実績 (交流の背景)	
2006 年の学術交流および学生交換協定の締結により、先方からは毎年約 8 名が交換留学生として来日している。2011 年に修士課程 DD プログラムの協定を締結し、2024 年までに DD では 5 名の受入、27 名の派遣、学期単位の交換では 6 名の受入、3 名の派遣実績がある。長年、研究者同士の交流が行われており、過去に本学で博士の学位を取得した学生がポスドク研究員となった例がある。EU 圏内でも留学生交流が極めて盛んに行われており、本学からの派遣学生はキャンパスで国際性豊かな経験を送ることが期待される。	
② 交流に向けた準備状況	
2022 年、先方担当者とは定期的に国際教育関係の会議でプログラムの展開について意見交換を行う機会があり、派遣学生数の増加についても大いに期待できる。2022 年 2 月には国際担当理事や前 T.I.M.E. Association 代表者など国際プログラム推進関係者 3 名が本学を訪問し、交流の継続と発展について協議を行った。 当プログラムにおいては、DD プログラムならびに semester 単位の交換留学の実施を予定している。	

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	その他の T.I.M.E. Association 加盟校ならびに欧州協定校
① 交流実績（交流の背景）	
56 の理工系高等教育機関のコンソーシアムである T.I.M.E. Association のメンバー校として、DD プログラムの開発および運用を手掛けてきている。T.I.M.E.ではコンソーシアムのメンバー校同士の2校間協定を締結し、DD プログラムを運用することを推奨している。本学は2007年に加盟校3校からの推薦を受けてアソシエートメンバーとして加盟を果たし、今日まで15校との間で2校間のDD協定を締結し、学生交流を行っている。 2023年にはT.I.M.E. Associationのメンバー校の仏 ISAE SUPAERO（国立航空宇宙工学高等学院）と学生交換協定を新たに締結し、今後学生交換を発展させ、DD 協定締結に向けた協議を行う見込みがある。 以下は、T.I.M.E. Association のメンバー校ではない有力な欧州高等教育機関との連携推進の一例である。 ・ 2015年には独 University of Stuttgart（シュトゥットガルト大学）との間に学生交換協定を締結し、2023年に協議を行い、交流分野の拡大を検討している。 ・ 2022年には INSA リヨンを擁する INSA グループと学生交換協定を締結した。INSA グループはエコールサントラルグループ、IMT グループと並ぶ有力な理工系分野のグランゼコールの連合体である。INSA リヨンでの短期研修をはじめ、学生交換を発展させていくことで合意している。 ・ 仏 Grenoble INP-UGA（グルノーブル・アルプ大学）とは、本学との研究連携があるが、学生交流へ広げる協議を行っている。	
② 交流に向けた準備状況	
本申請の事業期間には、T.I.M.E.加盟校ならびに本学協定校との交流をより活発に行うとともに、それを通じて得たノウハウを生かし、他の有力な欧州高等教育機関との交流につなげていく。新たなパートナーと学術交流協定を締結する場合には、DD 協定の締結に先立って準備期間を設定し、学期単位の交換留学生の相互派遣により相互理解を深めることを原則としている。交流事業を通じ信頼関係を醸成し、より強度な連携を要する国際共同学位プログラムの実施に発展させていく。 DD プログラムは欧州の大学との間で実施し、DD への関心を喚起するためのエンカレッジプログラムは、本学学生の留学への志向や経済的、心理的なハードルも踏まえ、欧州に限らず、北米、大洋州、アジア圏の有力大学と実施していく。	

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

プログラム計画の実現性、プログラムの発展性、交流プログラムの質の向上のための評価体制 【①は1ページ以内、②～④は合わせて3ページ以内】	
① 年度別実施計画	
【2024 年度（申請時の準備状況も記載）】	
本学理工学研究科は 20 年近くにわたり修士課程 DD プログラムを運用し、AI や量子などの重点分野に人材を輩出してきた。このため、各重点分野に関する Learning Agreement 型 DD を実施するリソースを有している。一方、短期海外研修と DD が個別に広報されてきたため、関連性が不明瞭であったり、英語開講科目数が限定的という課題がある。2024 年度は Learning Agreement 型 DD の具現化と留学エンカレッジプログラムを準備する期間と位置付け、以下の項目を実施する。 ・ 本学およびパートナー校で重点分野に取り組む教員、講義、プロジェクト、研究に関する情報を収集し、Learning Agreement 型 DD についてパートナー校と協議し、広報を開始する ・ グローバルリーダーシップセミナー研修について高麗大学、淡江大学と共同で開発する ・ 留学エンカレッジプログラムから DD プログラムまで、各プログラムの位置付けと関係を明示すべく、留学サイトを外部委託でリニューアルする ・ 各重点分野の英語開講科目の充実を図るべく関係学科に英語開講科目の設置を要請する	
【2025 年度】	
2024 年度の実施事項に基づいて、2025 年度は学部学生への留学エンカレッジキャンペーンを積極的に開始する。特に、DD 挑戦に向けて十分な準備期間がある学部 1、2 年生に訴求することに重点を置き、学生および保証人に留学の意義を伝えるために以下の項目を実施する。 ・ 短期長期留学プログラムへの応募を留学サイトに集約し、統一フォーマットで情報提供する ・ グローバルリーダーシップセミナー研修を延世大学、UC Santa Barbara と共同開発する ・ 英語開講科目の充実を図る。目標は分野ごとに留学生が学生ビザ取得に必要な 7 科目とする ・ 本学理工学研究科の DD プログラム 20 周年イベントを開催し、パートナー校や DD 修了生と、留学志望の学部学生、スポンサーとなり得る DD 修了生の積極採用企業を招待する	
【2026 年度】	
本申請課題の終了年に向けた予算の傾斜措置を念頭に、2026 年度までに留学エンカレッジプログラムの充実を完了させるとともに、Keio Double Degree Day (KDDD) の準備を開始する。 ・ DD プログラムの欧州パートナー校を中心に欧州短期研修の派遣枠拡大等の充実を図る ・ フォローアッププログラムである KDDD の開催に向けて、これまでの DD 修了生と DD 現役生、DD 候補生、企業への主旨説明を開始し、KDDD 運営体制を確立する	
【2027 年度】	
学部 1、2 年生への留学エンカレッジプログラムの成果が DD への挑戦として現れるのが 2027 年以降である。このため、DD 生の増加に対応するために運営体制の強化を図る。 ・ 応募、手続きなどメールでの個別対応から外部委託を利用して管理体制のシステム化を図る	
【2028 年度】	
補助期間の終了後の継続性、発展性のために 2028 年度は人員と予算の手当を準備する。 ・ DD を運用する専任者の雇用を準備する ・ 留学エンカレッジプログラムの効果測定を行い、効果的なものをシーケンシャルに配置した理工学部国際コースを企画し、入学前の高校生に DD を訴求する。アジア有力大学との良質なネットワークを活用しているため、運用費用は受益者負担としても比較的抑えられる ・ KDDD スポンサー企業を募集し、修了生と企業にネットワーキングの機会を提供する	

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

② 交流プログラムの質の向上のための評価体制 本申請事業の中核は重点分野を明示した Learning Agreement 型 DD プログラムであり、これに挑戦する日本人学生数を増加させるための留学エンカレッジプログラムと、DD 修了生に頭脳循環ネットワークの機会を提供する le Degree Day (KDDD) を前後に配置することで、日本人学生・修了生の流動性の向上に資する DD プログラムを構築する。本学においては、例えば、学期終了時に科目ごとの学生フィードバックや卒業・修了時のアンケートを通して講義やカリキュラム全体の評価を行っているが、本申請事業のようなエンカレッジプログラムからフォローアッププログラムまでを一貫して評価、効果測定するシステムは運用していない。このため、本事業では下記のような評価体制を構築し、長期間にわたる学生の学修支援を評価する。 1) 評価委員会の設置 内部評価委員 2 名、外部評価委員 3 名からなる評価委員会を設置する。 2) 内部評価委員の役割 内部評価委員は本申請事業で提案している留学エンカレッジプログラム、Learning Agreement 型 DD プログラム、フォローアッププログラムの趣旨や目標を明確に説明し、評価項目を策定する役割を担う。具体的には評価ガイドラインを文章にまとめ、評価用データと評価フォームを準備する。 3) 外部評価委員の役割 外部評価委員は準備された評価ガイドライン、評価フォームの妥当性を確認するとともに、内部評価委員から提出される評価データに基づいて、各項目が適切に実行されているかを確認し、必要に応じて改善点を指摘する役割を担う。 4) 評価の頻度と実施時期 本申請事業の実施計画をもとに、評価は年度ごとに実施する。また、事業終了時には全期間を通して改めて項目ごとの評価を実施する。欧州との DD プログラムの派遣・受入は秋学期スタートであるため、各年度の 12 月末までに内部評価委員が評価データを収集し、1～2 月に外部評価委員が評価する予定である。なお、2024 年度に評価体制を構築し、具体的な評価を 2025 年度から開始する。 5) 評価結果の共有と事業運営の改善 外部評価委員からの評価結果は 3 月の本申請事業の運営委員会、本学常任理事（国際担当）、本学グローバル本部等と共有し、次年度以降の運営に反映させる。 6) 学生フィードバック 本学がすでに運用している学生アンケートの結果をもとに担当者が個別の科目の改善に役立てる。 ③ 補助期間終了後のプログラム展開 欧州との修士 DD プログラムは本学大学院理工学研究科が時間をかけて育んできた国際戦略の最も重要な取り組みのひとつである。すでに述べたように、1999 年のボローニャ宣言以降、国際共同学位プログラムを含む教育統合を強力に推進してきた欧州の有力大学と緊密な関係を築き、DD プログラムに特化した学生交換協定に基づく DD プログラム（2005 年スタート）から、カリ
--

キュラムを共同開発した JEMARO プログラム（2020 年スタート）へと国際共同学位プログラムを拡充、発展させてきた。

本学理工学部・理工学研究科は 2039 年の創立 100 周年に向けて DD プログラムの次なる 15 年での更なる展開を計画している。本申請事業は、その計画の一翼を担うものであり、補助期間終了の 2028 年までの期間は 2039 年を目指した DD 改革のスタートダッシュ期間に当たる。

JEMARO プログラムでの欧州 3 大学とのカリキュラム共同開発の経験から、学生交換協定に基づく従来型 DD とは全く異なる視座を得た。すなわち、学位制度が異なる国同士においても、協議によって双方で単位互換科目を事前認定すれば、DD 期間の中でパートナー校にて過ごす時期の選択がフレキシブルにできる可能性を見出した。学籍の取り扱いや学費の納入先、在籍期間算入のルールなど、手続き上のハードルを解消し、2039 年には極めてフレキシブルで、修了時期や最終学期を過ごす国に捉われない DD プログラムを完成させたい。こうした DD 改革に対して、本申請事業での補助には、最も重要な欧州パートナー校との事前協議に基づく分野別の Learning Agreement の形を完成するとともに、DD 候補生となる学部生への効果的な留学エンカレッジプログラムを構築する役割を期待している。

カリキュラムを相補的に提供するための合意形成プロセスを確立すれば、各国の学位制度の違いを乗り越えた、より緊密な次世代の国際共同学位プログラムである Joint Degree Label 型 DD などの本格始動にリアルタイムに対応することができる。こうした準備を通して、**責任あるパートナーとして日欧国際共同学位プログラムを牽引すること**を目指している。

④ 補助期間終了後のプログラム展開に向けた資金計画

本学理工学部の学生アンケートによれば、留学を躊躇する大きな理由は語学力とともに、経済的理由である。このため、本申請事業では**欧州との DD プログラムを活性化するための留学エンカレッジプログラムをあえてアジア有力大学との良質なネットワークを中心に構築**することを計画した。

DD プログラム自体はパートナー校での学費は免除され、欧州での学生寮も充実しているため、首都圏に下宿して本学に通学する費用と大きな違いはない。一方、学位プログラムへの挑戦をエンカレッジする短期研修の費用は比較的高額である。たとえば、本学国際センターが学部生向けに主催するケンブリッジ大学ダウニング・コレッジ夏季講座は、3 週間で研修費用が約 107 万円（渡航費別）である。このため、学部教育でも多くの英語開講科目を展開し、学生の英語運用能力も高い韓国 延世大学（QS 73 位、THE 76 位）、高麗大学（QS 79 位、THE 201-250 位）を中心にアジアの有力大学と留学エンカレッジプログラムを共同開発することで、補助期間終了後も自己資金で余裕を持って運用できるよう計画している。補助期間中はこうした留学エンカレッジプログラムに参加する学生への補助も一定額支援する。これは、補助期間を各エンカレッジプログラムの効果測定をするパイロットスタディの期間と捉えているためである。補助期間終了後は効果の高いプログラムをシーケンシャルに配置した理工学部国際コースを計画し、授業料とは別に実習費として運用費用を受益者負担するシステムに移行することを考える。前述のように、これまで育んできたアジアの良質なネットワークの活用により学生・保証人の負担を抑えることで、国際的なキャリアパスに意欲ある学生に公平でインクルーシブな機会を提供する。

（大学名：慶應義塾大学）（タイプ：A）

また、DD 修了生のフォローアッププログラムとして計画する KDDD は、補助期間中には DD 修了生の積極採用企業等を招待して開催し、補助期間終了後 1 年目から参加した場合を最も安価に設定した DD 賛助企業を募集して DD 運用財政基盤の強化を図る。賛助企業のメリットは、日欧で重点分野の学修に集中した専門性の高い高度グローバル人材との頭脳循環ネットワーキングイベントへの参加としてアピールしたい。

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】					
① 交流プログラムを実施する相手大学の概要					
大学名称	(日)	エコールサントラル リール		国名	フランス (エコールサントラルグループ)
	(英)	Ecole Centrale de Lille			
設置形態	公立		設置年	1872	
設置者（学長等）	Emmanuel Duflos				
学部等の構成	Department of Business and Society Department of Civil Engineering Department of Electronical & Electrical Engineering & Automation Engineering Department of General Mathematics and Computer Engineering Department of Material Engineering Department of Mechanics Department of Systems Engineering Institute of Computer Technology and Industrial Engineering (IG2I) Institute of Technology, Management, and Entrepreneurship (ITEEM) School of Chemistry (ENSCL)				
学生数	総数	2,125	学部生数	大学院生数	
受け入れている留学生数			日本からの留学生数		
海外への派遣学生数			日本への派遣学生数		
Web サイト (URL)	https://centralelille.fr/				
② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。 また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。					
					

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日)	エコールサントラル リヨン	国名	フランス (エコールサントラルグループ)
	(英)	Ecole Centrale de Lyon		
設置形態	公立		設置年	1857
設置者（学長等）	Frank Debouck			
学部等の構成	Department of Communication, Languages, Business, Sport Department of Electronics and Automation Department of Fluid Mechanics, Acoustics and Energy Department of Materials and Surfaces Science and Techniques Department of Mathematics and Computer Science Department of Solid Mechanics, Mechanical Engineering and Civil Engineering			
学生数	総数		学部生数	
			大学院生数	
受け入れている留学生数			日本からの留学生数	
海外への派遣学生数			日本への派遣学生数	
Web サイト（URL）	https://www.ec-lyon.fr			

 ② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。
 また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。





Centrale Lyon
 Ecole centrale de Lyon - COMUE Université de Lyon (ECL)

IAU-004000
<https://www.whed.net/institutions/IAU-004000>

France

General Information

General Information

Address	Street: 36, avenue Guy de Collongue BP 163 City: Ecully Post Code: 69134 WWW: https://www.ec-lyon.fr
Other Sites	Has 6 research laboratories
Institution Funding	Public
History	Founded 1857, became public 1947, and acquired present status 1992. A public 'Grande Ecole'. Member of the COMUE Université de Lyon - Modified Decree n° 2015-127 of February 5, 2015
Academic Year	September to July
Admission Requirements	Competitive entrance examination following 2-3 yrs further study after secondary school certificate (baccalauréat) or equivalent
Language(s)	French;English
Accrediting Agency	Engineering Titles Commission (CTI); Ministry of Higher Education, Research and Innovation
Student Body	co-ed

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日) サントラル メディテラネ (旧 エコールサントラル マルセイユ) (英) Centrale Mediterranee (ex. Ecole Centrale de Marseille)	国名	フランス (エコールサントラルグループ)
設置形態	公立	設置年	1891
設置者（学長等）	Carole Deumié		
学部等の構成	Division of Optical Science and Technology School of Applied Physics School of Engineering		
学生数	総数	学部生数	大学院生数
受け入れている留学生数		日本からの留学生数	
海外への派遣学生数		日本への派遣学生数	
Web サイト（URL）	https://www.centrale-mediterranee.fr/		

- ② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。
また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。





Centrale Marseille

Ecole centrale de Marseille (EC-Marseille)

IAU-004002

France

<https://www.whed.net/institutions/IAU-004002>

General Information

General Information

Address	Street: 38, rue Frédéric Joliot Curie City: Marseille Post Code: 13013 WWW: https://www.centrale-marseille.fr
Institution Funding	Public
History	Founded 1891 as École Supérieure d'Ingénieurs de Marseille. Acquired present status 2004, following the merger of four engineering schools, ENSPM, ENSSPICAM, ESM2 and École Supérieure d'Ingénieurs de Marseille.
Academic Year	September to June (September-February; March-June)
Admission Requirements	Competitive entrance examination at the end of a two-year undergraduate course in maths, physics and chemistry (Classes Préparatoires).
Language(s)	French
Accrediting Agency	Engineering Titles Commission (CTI); Ministry of Higher Education, Research and Innovation
Student Body	co-ed

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】					
① 交流プログラムを実施する相手大学の概要					
大学名称	(日)	エコールサントラル ナント		国名	フランス (エコールサントラルグループ)
	(英)	Ecole Centrale de Nantes			
設置形態	公立		設置年	1919	
設置者(学長等)	Arnaud Poitou				
学部等の構成	Department of Automation Control and Robotics Department of Communication, Language and Business administration Department of Fluid Mechanics and Energetics Department of ICT in Education Department of Material, Mechanical and Civil Engineering Department of Product Design and Industrial Systems Department of Social Sciences, Modern Languages and Sports				
学生数	総数		学部生数		学生数 総数
受け入れている留学生数	600		日本からの留学生数		
海外への派遣学生数			日本への派遣学生数		
Web サイト (URL)	https://www.ec-nantes.fr				
② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。 また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。					
 The screenshot shows the WHED profile for Nantes University Centrale Nantes. Key information includes: IAU-019627-004001 (Institution ID) Address: BP 92101, 1, rue de la Noë, Nantes, 44321, France. Website: https://www.ec-nantes.fr Other Sites: Also 5 research laboratories Institution Funding: Public History: Founded 1919 as Institut polytechnique de l'Ouest by the Chambre de commerce de Nantes, became Ecole nationale supérieure de mécanique de Nantes 1947. Acquired present status and title 'Grande Ecole'. Since January 1, 2022, Centrale Nantes has been a component institution of Université de Nantes Academic Year: September to June Admission Requirements: National competitive entrance examination following 2-3 years further study after secondary school certificate (baccalauréat) or equivalent Language(s): French Accrediting Agency: Engineering Titles Commission (CTI); Conference of Grandes Ecoles (CGE); Ministry of Higher Education, Research and Innovation Student Body: co-ed					

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】					
① 交流プログラムを実施する相手大学の概要					
大学名称	(日)	サントラル スペレック		国名	フランス (エコールサントラルグループ)
	(英)	Paris-Saclay University Centrale Supélec			
設置形態	公立		設置年	1894	
設置者（学長等）	Romain Soubeyran				
学部等の構成	Department of Automatic Control Systems Department of Computer Science Department of Electromagnetism Department of Electronics and Signal Processing Department of Languages and Culture Department of Power Systems and Power Electronics Department of Telecommunications				
学生数	総数	4,300	学部生数		大学院生数
受け入れている留学生数			日本からの留学生数		
海外への派遣学生数			日本への派遣学生数		
Web サイト（URL）	https://www.centralesupelec.fr				
② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。 また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。					
 The screenshot displays the official website of Paris-Saclay University, specifically the CentraleSupélec section. It features logos for the International Association of Universities (IAU) and UNESCO. The page includes the IAU-026989-004244 accreditation number and a dropdown menu for 'General Information'. Below this, a table provides detailed information about the university, including its address (3, rue Joliot-Curie, Gif-sur-Yvette, 91192), website (https://www.centralesupelec.fr), other campuses (Metz, Rennes, and abroad in China, India, and Morocco), funding (Public), history (founded 1894, merged in 2015), academic year (September to June), admission requirements (competitive entrance examination), language(s) (French), accrediting agency (Engineering Titles Commission (CTI); Ministry of Higher Education, Research and Innovation), and student body (co-ed).					

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日)	アーヘン工科大学			国名	ドイツ
	(英)	RWTH Aachen University				
設置形態	公立			設置年		1870
設置者（学長等）	Ulrich Rüdiger					
学部等の構成	Faculty of Mathematics, Computer Science and Natural Sciences Faculty of Architecture Faculty of Civil Engineering Faculty of Mechanical Engineering Faculty of Georesources and Materials Engineering Faculty of Electrical Engineering and Information Technology Faculty of Arts and Humanities Faculty of School of Business and Economics Faculty of Medicine					
学生数	総数	45,284	学部生数		大学院生数	
受け入れている留学生数	14,437			日本からの留学生数		
海外への派遣学生数				日本への派遣学生数		
Web サイト（URL）	https://www.rwth-aachen.de					

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。
また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

IAU-013981 Germany
<https://www.wqed.net/institutions/IAU-013981>

General Information

Address
Street: Templergraben 55
City: Aachen
Post Code: 52056
WWW: <http://www.rwth-aachen.de>

Institution Funding Public

History Founded 1870 as Polytechnikum, became Technische Hochschule in 1880 and acquired present title 1948, reorganized 1970. Under the jurisdiction of and financed by the State of North Rhine-Westphalia

Academic Year October to September (October-March; April-September)

Admission Requirements Secondary school certificate (Reifezeugnis) or equivalent

Tuition Fees National: None due to state sponsored tuition (EUR)

Language(s) German;English

Accrediting Agency ASIIN; Systemakkreditierung

Religious Affiliation None

Student Body co-ed

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】																										
① 交流プログラムを実施する相手大学の概要																										
大学名称	(日)	ミュンヘン工科大学			国名	ドイツ																				
	(英)	Technical University of Munich																								
設置形態	公立		設置年		1868																					
設置者（学長等）	Thomas F. Hofmann																									
学部等の構成	School of Computation, Information and Technology School of Engineering and Design School of Natural Sciences School of Life Sciences School of Medicine and Health School of Management School of Social Sciences and Technology																									
学生数	総数	52,580	学部生数		大学院生数																					
受け入れている留学生数	23,422		日本からの留学生数																							
海外への派遣学生数			日本への派遣学生数																							
Web サイト（URL）	http://www.tum.de																									
② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。 また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。																										
 Technical University of Munich Technische Universität München Technische Universitaet Muenchen (TUM) IAU-016255 Germany https://www.whed.net/institutions/IAU-016255 General Information <table border="1"> <tr> <td>Address</td> <td>Street: Arcisstrasse 21 City: München Post Code: 80333 WWW: http://www.tum.de</td> </tr> <tr> <td>Other Sites</td> <td>Also Teaching Hospital</td> </tr> <tr> <td>Institution Funding</td> <td>Public</td> </tr> <tr> <td>History</td> <td>Founded 1827 as Polytechnische Zentralschule, became Polytechnische Schule 1868, Technische Hochschule 1877 and University 1970. An autonomous institution under the jurisdiction of the State of Bavaria.</td> </tr> <tr> <td>Academic Year</td> <td>October to September (October-March; April-September)</td> </tr> <tr> <td>Admission Requirements</td> <td>Secondary school certificate (Reifezeugnis) or equivalent</td> </tr> <tr> <td>Language(s)</td> <td>German;English</td> </tr> <tr> <td>Accrediting Agency</td> <td>Organ für Akkreditierung und Qualitätssicherung OAQ</td> </tr> <tr> <td>Religious Affiliation</td> <td>None</td> </tr> <tr> <td>Student Body</td> <td>co-ed</td> </tr> </table>							Address	Street: Arcisstrasse 21 City: München Post Code: 80333 WWW: http://www.tum.de	Other Sites	Also Teaching Hospital	Institution Funding	Public	History	Founded 1827 as Polytechnische Zentralschule, became Polytechnische Schule 1868, Technische Hochschule 1877 and University 1970. An autonomous institution under the jurisdiction of the State of Bavaria.	Academic Year	October to September (October-March; April-September)	Admission Requirements	Secondary school certificate (Reifezeugnis) or equivalent	Language(s)	German;English	Accrediting Agency	Organ für Akkreditierung und Qualitätssicherung OAQ	Religious Affiliation	None	Student Body	co-ed
Address	Street: Arcisstrasse 21 City: München Post Code: 80333 WWW: http://www.tum.de																									
Other Sites	Also Teaching Hospital																									
Institution Funding	Public																									
History	Founded 1827 as Polytechnische Zentralschule, became Polytechnische Schule 1868, Technische Hochschule 1877 and University 1970. An autonomous institution under the jurisdiction of the State of Bavaria.																									
Academic Year	October to September (October-March; April-September)																									
Admission Requirements	Secondary school certificate (Reifezeugnis) or equivalent																									
Language(s)	German;English																									
Accrediting Agency	Organ für Akkreditierung und Qualitätssicherung OAQ																									
Religious Affiliation	None																									
Student Body	co-ed																									

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日)	ミラノ工科大学			国名	イタリア	
	(英)	Politecnico di Milano					
設置形態	国立			設置年			1863 年
設置者（学長等）	Donatella Sciuto						
学部等の構成	School of Architecture, Urban Planning, and Construction Engineering School of Civil Engineering, Environmental Engineering and Land Management Engineering School of Design School of Industrial and Information Engineering						
学生数	総数	47,959		学部生数		学生数	総数
受け入れている留学生数	8,258			日本からの留学生数			
海外への派遣学生数				日本への派遣学生数			
Web サイト（URL）	https://www.polimi.it						

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。
また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。





Politecnico di Milano
(Polimi)

IAU-013581
<https://www.whed.net/institutions/IAU-013581>

Italy IAU Member





General Information

General Information

Address	Street: Piazza Leonardo da Vinci 32 City: Milano Post Code: 20133 WWW: https://www.polimi.it
---------	---

Institution Funding	Public
History	Founded 1863 as Reale Istituto Tecnico Superiore. Acquired present status and title 1934
Academic Year	September to June (September - December; February - June)
Admission Requirements	Secondary school certificate (maturità) or foreign equivalent
Language(s)	Italian;English
Accrediting Agency	Ministry of Education, University and Research
Student Body	co-ed

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日)	ジェノヴァ大学			国名	イタリア (JEMARO)	
	(英)	University of Genoa					
設置形態	公立			設置年			1417
設置者（学長等）	Federico Delfino						
学部等の構成	Faculty of Architecture / Faculty of Economics Faculty of Engineering / Faculty of Foreign Languages and Literature Faculty of Humanities and Philosophy / Faculty of Law Faculty of Mathematics, Physical and Natural Sciences Faculty of Medicine and Surgery / Faculty of Pharmacy Faculty of Political Science / Faculty of Teacher Training						
学生数	総数	35,000		学部生数		大学院生数	
受け入れている留学生数	3,000			日本からの留学生数			
海外への派遣学生数				日本への派遣学生数			
Web サイト（URL）	https://unige.it						

- ② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。
また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

The screenshot displays the profile of the University of Genoa (Università degli studi di Genova) on the WHED website. The profile includes the following information:

- IAU-018779** (Institutional ID)
- Location:** Genova, Italy
- Address:** Street: Via Balbi 5, City: Genova, Post Code: 16126, WWW: <https://unige.it>
- Institution Funding:** Public
- History:** Founded 1471 by Bull of Pope Sixtus IV, degrees recognized by Emperor Maximilian I 1496. Acquired university status and reorganized 1773. Under the jurisdiction of the Ministry of Universities and Scientific and Technological Research, but enjoys administrative autonomy. Financially supported by the State.
- Academic Year:** November to October
- Admission Requirements:** Secondary school certificate (maturità) or equivalent
- Language(s):** Italian
- Accrediting Agency:** Ministry of Education, University and Research
- Student Body:** co-ed

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日) ワルシャワ工科大学 (英) Warsaw University of Technology	国名	ポーランド (JEMARO)
設置形態	公立	設置年	1826
設置者(学長等)	Jan Szmidt		
学部等の構成	Faculty of Administration and Social Sciences / Faculty of Architecture Faculty of Automotive and Construction Machinery Engineering Faculty of Chemical and Process Engineering / Faculty of Chemistry Faculty of Civil Engineering / Faculty of Electrical Engineering Faculty of Electronics and Information Technology Faculty of Building Services, Hydro and Environmental Engineering Faculty of Geodesy and Cartography Faculty of Mathematics and Information Science / Faculty of Management Faculty of Materials Science and Engineering Faculty of Mechanical and Industrial Engineering / Faculty of Mechatronics Faculty of Physics Faculty of Power and Aeronautical Engineering / Faculty of Transport Faculty of Civil Engineering, Mechanics and Petrochemistry (Plock) College of Economics and Social Sciences (Plock)		
学生数	総数	34,600	学部生数 大学院生数
受け入れている留学生数			日本からの留学生数
海外への派遣学生数			日本への派遣学生数
Web サイト (URL)	http://www.pw.edu.pl		

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。
また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。



Warsaw University of Technology
Politechnika Warszawska (PW)

IAU-013573
<https://www.whed.net/institutions/IAU-013573>

Poland
General Information

Address

Street: pl. Politechniki 1
City: Warszawa
Province: Mazowieckie
Post Code: 00-661
WWW: <http://www.pw.edu.pl>

Other Sites: Also Branch in Plock

Institution Funding: Public

History: Founded 1826 as Preparatory School for the Institute of Technology. Closed in 1830 and reopened 1898. Acquired present title and status 1915.

Academic Year: October to June (October-February; February-June)

Admission Requirements: Secondary school certificate (Matura), or foreign equivalent and entrance examination

Language(s): Polish;English

Accrediting Agency: Ministry of Science and Higher Education; Polish Accreditation Committee

Student Body: co-ed

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日)	ブリュッセル自由大学		国名	ベルギー	
	(英)	Université libre de Bruxelles				
設置形態	私立		設置年			1834
設置者（学長等）	Annemie Schaus					
学部等の構成	Institute for European Studies Interfaculty School of Bio-Engineering School of Public Health High Institute of Physical Education and Kinesiotherapy Institute of Work Sciences Institute of Statistics and Operational Research Institute for Astronomy and Astrophysics Solvay Brussels School of Economics and Management Faculty of Sciences					
学生数	総数		学部生数		大学院生数	
受け入れている留学生数	(32%)		日本からの留学生数			
海外への派遣学生数			日本への派遣学生数			
Web サイト（URL）	https://www.ulb.be					

 ② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。
 また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

IAU-019756
<https://www.wihed.net/institutions/IAU-019756>

Belgium - French Community

ULB UNIVERSITÉ LIBRE DE BRUXELLES

General Information

Address	Street: Franklin Roosevelt Avenue, 50 City: Bruxelles Post Code: 1050 WWW: https://www.ulb.be
Other Sites	Campuses at: Solbosch, Plaine, Erasme, Nivelles (province of Brabant), Treignes, Charleroi; also an academic hospital "Erasme"
Institution Funding	Private
History	The Université libre de Bruxelles has 13 faculties, schools and specialized institutes combining academic input and research. It offers almost 40 undergraduate programmes and 235 graduate programmes. It also partners with 20 Doctoral schools, with almost 1,600 PhD in progress
Academic Year	September to July
Admission Requirements	Secondary school certificate or recognized foreign equivalent; Entrance examination; Entrance examination; Certificate of French language proficiency
Language(s)	French; English
Accrediting Agency	Wallonia-Brussels Federation (Fédération Wallonie-Bruxelles)
Student Body	co-ed

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日) ルーヴァンカソリック大学 (英) Université Catholique de Louvain	国名	ベルギー
設置形態	公立	設置年	1425
設置者（学長等）	Vincent Blondel		
学部等の構成	Faculty of Medicine and Dentistry / Faculty of Movement and Rehabilitation Sciences Faculty of Pharmacy and Biomedical Sciences / Faculty of Public Health Faculty of Science / Faculty of bioscience engineering Faculté d'architecture, d'ingénierie architecturale, d'urbanisme Louvain School of Engineering / Louvain School of Management Faculty of Economic, Social and Political Sciences and Communication Faculty of Law and Criminology / Faculty of Philosophy, Arts and Letters Faculty of Psychology and Educational Sciences / Faculty of Theology		
学生数	総数	学部生数	大学院生数
受け入れている留学生数		日本からの留学生数	
海外への派遣学生数		日本への派遣学生数	
Web サイト（URL）	https://uclouvain.be		

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。
また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

The screenshot displays the official website of the Université catholique de Louvain (UCLouvain). The header includes logos for IAU, WHED, and UNESCO, along with the university's name in French and English. Below the header, there is a section titled 'General Information' with a dropdown menu. The main content area provides detailed information about the university, including its address (Place de l'Université, 1, Louvain-la-Neuve, Belgium), other sites (Bruxelles Woluwe, Mons, Tournai, Bruxelles St-Gilles, and Charleroi), and its history (founded in 1425). It also lists accreditation details, such as the accrediting agency (Wallonia-Brussels Federation) and the student body (co-ed).

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日)	王立工科大学			国名	スウェーデン	
	(英)	KTH Royal Institute of Technology					
設置形態	公立			設置年			1827
設置者（学長等）	Anders Söderholm						
学部等の構成	School of Architecture and the Built Environment School of Electrical Engineering and Computer Science School of Engineering Sciences in Chemistry, Biotechnology and Health School of Engineering Sciences School of Industrial Engineering and Management						
学生数	総数	13,583		学部生数		大学院生数	
受け入れている留学生数				日本からの留学生数			
海外への派遣学生数				日本への派遣学生数			
Web サイト（URL）	https://www.kth.se/						

- ② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。
また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。



IAU-010605 Sweden
<https://www.whed.net/institutions/IAU-010605>

General Information

Address
 Street: Brinellvägen 8
 City: Stockholm
 Post Code: SE-100 44
 WWW: <http://www.kth.se>

Institution Funding Public

History Founded 1827 as Institute, reorganized as a University and became Royal Institute 1876. Acquired university status 1927

Academic Year August to June (August-December; January-June)

Admission Requirements Upper secondary school certificate (tekniskt/naturvetenskapligt gymnasium) or foreign equivalent, and knowledge of Swedish

Language(s) Swedish;English

Accrediting Agency Swedish Higher Education Authority (UKÄ)

Student Body co-ed

（大学名：慶應義塾大学）（タイプ：A）

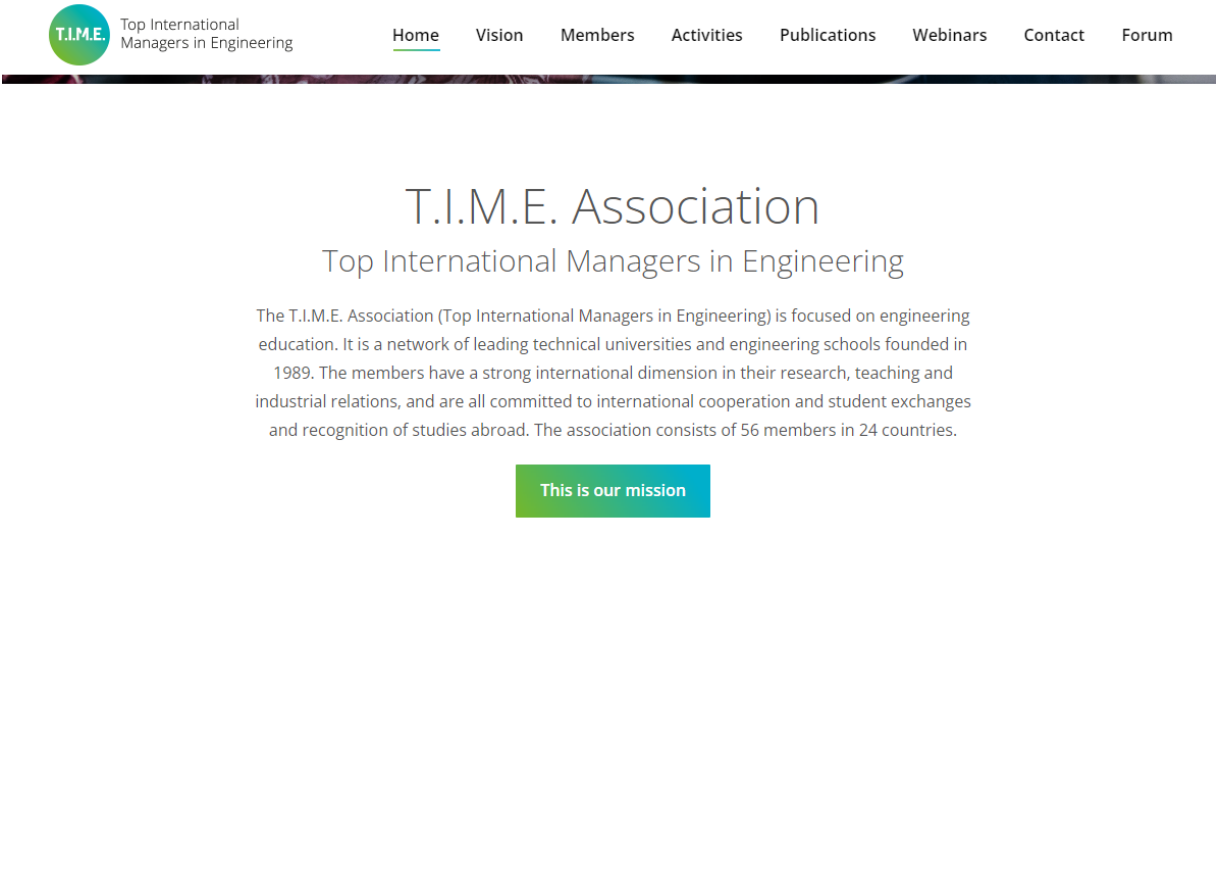
③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日)	T.I.M.E. Association 加盟大学		国名	
	(英)	T.I.M.E. Association			
設置形態		設置年		1989	
設置者（学長等）					
学部等の構成	T.I.M.E. Association (Top International Managers in Engineering)は欧州連合(EU)を中心にトップクラスの理工系高等教育機関が加盟するネットワークで、異なる文化への理解力と複数の言語運用能力を兼ね備えたエンジニア育成を目指し、修士レベルのダブルディグリーを推進するためのコンソーシアム。2024年現在 24 カ国から 56 の高等教育機関が加盟している。				
学生数	総数		学部生数		大学院生数
受け入れている留学生数			日本からの留学生数		
海外への派遣学生数			日本への派遣学生数		
Web サイト (URL)	https://timeassociation.org/				

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。
また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。


(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

参考データ【国内の大学等 1 校につき、①～③は枠内に記入。④～⑤はそれぞれ指定ページ以内】									
※人数等の算定に当たっては、原則として「学校基本調査」による定義に基づき記入。									
大学等名		慶應義塾大学							
1 大学等全体における出身国別の留学生の受入人数（2023 年 5 月 1 日現在）及び各出身国（地域）別の 2023 年度の留学生受入総数									
※「留学生」とは、「出入国管理及び難民認定法」別表 1 に定める「留学」の在留資格を有する者に限る。									
※「2023 年度受入人数」は、2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日の出身国（地域）別受入人数を記入。									
※「全学生数」には、日本人学生及び外国人留学生を含めた大学等全体の 2023 年 5 月 1 日現在の在籍者数を記入。									
順位	出身国（地域）			2023 年 5 月 1 日時点 受入人数			2023 年度 受入総数		
1	中国			928			1131		
2	韓国			423			515		
3	フランス			116			194		
4	米国			93			142		
5	台湾			85			120		
6	ドイツ			44			114		
7	イタリア			38			66		
8	インドネシア			35			55		
9	英国			34			58		
10	タイ			32			41		
その他 (上記 10 カ国以外)	(主な カナダ、シンガポール、 国名) スペイン etc.			319			547		
留学生の受入人数の合計				2,146			2,983		
全学生数				34,258					
留学生比率				6.2%					
② 2023 年度中に留学した日本人学生数及び派遣先大学合計校数									
※教育又は研究等を目的として、2023 年度中（2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで）に海外の大学等（海外に所在する日本の大学等の分校は除く。）に留学した日本人学生について記入。									
なお、2023 年 3 月 31 日以前から継続して留学している者は含まない。									
順位	派遣先大学の所在国 (地域)			派遣先大学名				2023 年 度 派遣人数	
1	英国			ケンブリッジ大学ダウニング・コレッジ				60	
2	ドイツ			アーヘン工科大学				47	
3	フランス			パリ政治学院				42	
4	韓国			ソウル大学				39	
5	米国			ウィリアム・アンド・メアリー大学				29	
6	米国			カリフォルニア大学				26	
7	インドネシア			サティア・ワチャナ・クリスチャン大学				20	
7	タイ			コンケン大学				20	
7	フランス			アリアンス・フランセーズ・ノルマンディー				20	
10	ヨルダン			アリババ国際センター				17	
その他 (上記 10 カ国以外)	(主な 台湾 国名)			(主な大学名)		国立台湾大学			
	計	27	カ国	計	172	校			
派遣先大学合計校数				182					
派遣人数の合計								841	

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

大学等名	慶應義塾大学						
③ 大学等全体における外国人教員数（兼務者も含む）（2024 年 5 月 1 日現在）							
※「全教員数」には大学等に在籍する日本人教員も含めた全教員数を記入。							
※「うち専任教員（本務者）数」には教授、准教授、講師、助教、助手の専任の外国人教員の数をそれぞれ記入。（いずれにも当てはまらない場合には、「助手」に含めること。）							
全教員数	外国人教員数						外国人教員の比率
	教授	准教授	講師	助教	助手	合計	
4,618	34	26	35	59	270	424	9%
うち専任教員（本務者）数	34	26	30	59	6	155	

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

大学等名	慶應義塾大学
④ 取組の実績【4 ページ以内】	
1. 国際的な教育環境の構築 本学では英語による授業（語学を除く）を 970 科目以上設置しており、英語による講義を通して日本語の運用能力が十分ではない留学生にも幅広い分野の多様な授業科目にアクセスしやすい学習環境を提供するとともに、履修している日本人学生にとっても留学生と共に学ぶという国際的な教育環境を提供している。また、学士、修士、博士課程の全ての課程において、英語で学位取得可能なプログラムを設置しており、プログラム数の合計は 21 に上る。 大学院では 8 つの研究科で英語で学位取得可能なプログラムを提供しており、本申請の主体となる理工学研究科では、Japan-EU 高度ロボティクスマスタプログラム（以下、JEMARO）や先端科学技術国際コース（修士課程・後期博士課程）などの英語で学位が取得可能なプログラムを提供している。全学で海外の協定校と 30 のダブル・ディグリー・プログラムを提供しており、なかでも理工学部・理工学研究科では JEMARO プログラムの他、15 校と二校間でのダブル・ディグリー・プログラムを提供し、理工学研究科で約 120 名（累計）の修了者を出している。欧州 3 校と実施している JEMARO では 62 名の受入、16 名の派遣実績がある。（2024 年 3 月時点） 学部において学位取得可能な英語のプログラムとしては、「総合政策学部・環境情報学部：Global Information and Governance Academic (GIGA) Program（2011 年 9 月開設、2015 年 9 月に拡充）」と、経済学部において、2016 年 9 月に開設された「Programme in Economics for Alliances, Research and Leadership (PEARL)」がある。これらの英語のプログラムを修了した多くの卒業生がグローバル企業に就職し、国際的なキャリアを築いている。 学位取得プログラム以外では、国際交流業務を集中的かつ専門的につかさどる組織として、全国の大学に先駆けて 1964 年に設立された国際センターにおいて、全学横断的に履修可能な「国際センター講座」が開講されている。ここでは、外国および日本の文化や社会、国際関係を理解するために英語で開設されている（2024 年度 開設科目数：63）。交換留学協定大学からの受入留学生のほか、日本人学生も履修している。 以上のいずれのプログラム・学位取得コースも、本学では、留学生だけを対象とするいわゆる出島方式のプログラム・コースではなく、日本人学生と留学生がともに学ぶことのできる国際的な教育環境として整備してきた。このような環境をさらに発展させていくために、2014 年度に採択されたスーパーグローバル大学創成支援事業の取り組みの一環として、2016 年に GIC センター（Center for Global Interdisciplinary Courses）を設立した。GIC センターは国際的かつ学際的な人材育成の拠点であり、2016 年 4 月から全学部学生を対象とした英語（またはその他の外国語）による授業で一定単位を取得した学生に修了証を与えるプログラム Global Interdisciplinary Courses (GIC) を開始した。GIC では、英語のみで入学してくる学生を受け入れられるように、学部共通の英語カリキュラムを用意し、各学部が用意する英語による専門コース（経済学部：プロフェッショナル・キャリア・プログラム (PCP)、商学部：グローバル・パスポート・プログラム (GPP) など）に接続することで、「全ての学部・研究科」で外国語のみで卒業できる一貫コースの体制の整備が進められた。 このように、本学においては、留学生や日本人学生の双方に配慮した国際的な教育環境を構築している。本学で提供している国際的なプログラムについては、以下に一覧を記載する。 ・大学院における全て英語で学位取得可能なプログラム 経済学研究科	

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

修士課程・後期博士課程

<https://www.econ.keio.ac.jp/en/graduate/overview>

商学研究科

国際租税留学制度（修士課程）

<https://www.fbc.keio.ac.jp/graduate/en/tpm.html>

医学研究科

博士課程医学研究系専攻

<https://www.med.keio.ac.jp/en/admissions/doctoral/>

理工学研究科

先端科学技術国際コース（修士課程・後期博士課程）

<https://www.st.keio.ac.jp/en/admissions/>

Japan-EU 高度ロボティクスマスタプログラム（JEMARO）

<https://jemaro.ec-nantes.fr/>

政策・メディア研究科

修士課程・後期博士課程

<https://www.sfc.keio.ac.jp/gsmg/en/>

健康マネジメント研究科

修士課程・後期博士課程

<https://gshm.sfc.keio.ac.jp/en/admission/>

システムデザイン・マネジメント研究科

修士課程・後期博士課程

<https://www.sdm.keio.ac.jp/>

メディアデザイン研究科

修士課程・後期博士課程

<https://www.kmd.keio.ac.jp/ja/>

・学部における全て英語で学位取得可能なプログラム

経済学部

PEARL (Programme in Economics for Alliances, Research and Leadership)

<https://www.econ.keio.ac.jp/undergraduate/pearl>

総合政策学部、環境情報学部

GIGA (Global Information and Governance Academic) Program

<https://giga.sfc.keio.ac.jp/>

・学部・研究科等による英語で実施している主なプログラム

全学部対象の Global Interdisciplinary Courses（GIC）

<https://www.gic.keio.ac.jp/>

経済学部プロフェッショナル・キャリア・プログラム（PCP）

<https://www.econ.keio.ac.jp/en/undergraduate/pcp>

商学部 Global Passport Program（GPP）

<https://www.students.keio.ac.jp/mt/fbc/class/program/gpp.html>

国際センター講座

https://www.ic.keio.ac.jp/en/aboutic/aboutcourse/list_international_center_courses.html

・本学が提供しているダブル・ディグリー・プログラム

<https://www.keio.ac.jp/ja/academics/international/double-degree/>

2. 教員の国際化への対応と質的向上

本学では、4,618人の教員のうち424人が外国人教員である。(2024年5月現在)また、2014年より開始したスーパーグローバル大学創成支援事業において、海外副指導教授制度を用いて、外国人教を任用しており、2014年度から2023年度までの海外副指導教授任用数累計は939名となった。2023年度は制度開始以降最大となる279名の学生が、海外の大学の研究者から指導を受ける機会を得た。本学学生の国際的視野の醸成や異文化理解の向上、国際共同研究の推進等に繋がった。

「塾派遣留学」、「福澤基金による教員の留学」「サバティカル」制度などを設けており、全学で毎年約40人の教員が海外留学をしている。約340の海外協定大学や機関とパートナーシップを結んでおり、学術交流による教員の交換も行っている。近年ではスーパーグローバル大学創成支援事業のなかで、ダブル・ディグリー制度の実施や、各種の国際ネットワークへの積極的な参加などに伴い、パートナー大学との教員同士の交流や訪問等が増えている。

3. 事務職員と事務体制の国際化

外国人留学生の受け入れや派遣の業務、協定書の締結業務などに携わる国際交流部門の事務職員については、従来から、日常的な実務を通じて知識やスキルの向上を図っているが、そのほかに、毎年実施され、全世界の国際交流担当者が集まる米国のNAFSA (Association for International Educators) や、同様の組織の欧州版であるEAIE (European Association for International Education)、アジア版のAPAIE (Asia Pacific Association for International Education) 等に毎年職員を派遣して、協定大学との関係構築や国際交流業務を円滑に実施するためのスキル、知識の習得に努めてきた。

また、職員人事研修制度の一環として、国外派遣研修制度のほか、若手職員に対し、JSPS ロンドン研究連絡センターにある慶應ロンドンオフィスへ若手職員を派遣しているほか、大学等の職員を対象として、国際交流に関する幅広い見識と高度な実務能力を有する専門的な職員の養成を目的としたJSPS 国際学術交流研修に若手職員を派遣し、「国際協力員」として、実務研修を受講させている。

さらに、スーパーグローバル大学創成支援事業採択以降、構想実現のための組織としてスーパーグローバル (SG) 事業本部が学内に発足し、2018年11月には、新たにグローバル本部が設置された。グローバル本部は、SG 事業本部の事務局を担い、学内での事務職員のグローバル対応能力向上に関する研修やプログラムを企画し、学内各キャンパスの事務組織と連携して実施してきた。たとえば、人事部とTOEIC など外部の英語試験の受験料を年度内1人2回を上限に、補助する制度を開始し、現在も実施している。また、各国の大学の広報担当者等がグッドプラクティスを学び合う外部のコンソーシアムであるWorld 100 Reputation Network に加盟し、同団体が提供するレピュテーションマネジメントや広報に関する研修などに本学職員が参加する機会を与えている。

グローバル本部は、法人としての海外窓口として、首脳、大臣、大使などの各国要人、海外大学の学長等が本学を訪問する際の受入れに付随する講演会の実施、U7 + Alliance、APRU、RENKEI ほか、本学が加盟する国際的な大学コンソーシアム、各国大使館、あるいはBritish Council, EU 日本代表部など様々な機関と連携して実施する国際会議、イベント等の主催業務も行っている。これらの国際会議やイベントは、その性質上、グローバル本部だけではなく、施設を担当する管財部、学生の参加者を募る学生部、広報を行う広報部など、多くの事務職員が関わることになるため、国際的なイベント運営の実務経験を積む機会となっている。

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

さらに、スーパーグローバル大学創成支援事業の一環で、2016 年度から学内の事務文書の英文翻訳・校閲のインフラである Keio Translation（K トラ）を運用している。K トラで扱う日英翻訳（和文英訳）は、理工系・医学系のプレスリリース、ニュース記事、学生・保証人宛てのメッセージ、研究成果についての広報資料、資金執行マニュアルなど多岐にわたる。K トラが記事を作成している英文ニュースレターでは毎月本学の研究に関する記事を発信し、SNS では本学の情報を連日英文で広報している。また、K トラではクラウド上で翻訳者がファイルを共有し、翻訳の質の管理と用語の統一および用語集の構築も行っている。K トラの職員は英語ネイティブの専門員を中心に構成されており、学内の全てのキャンパスから翻訳・校閲を K トラに依頼できる体制を整えている。K トラを通じて、事務文書を英文翻訳・校閲することで、質の高い英文翻訳・校閲を提供するシステム、体制を構築している。このように、本学では、学内の情報の英語化という点では、国際部門に限らず、一どの部門においても、事務体制の国際化を進めるインフラが整備されているといえる。

4. 単位の実質化に向けた取組

各部門では、良質な教育を行うことに腐心し、学修成果を適切に把握するための施策として、委員会の設置等を通じた成績評価基準の検討、授業評価アンケート等の実施といった取り組みを行ってきた。

2022 年 4 月には、全学的な教育・学修の質保証・向上をめざし、その評価・改善活動を推進する全学的な組織としての大学教学マネジメント推進センターを設置した。このセンターには、「教学企画」「教育・学修成果評価」「FD 促進」「教学 IR」の観点からの諸施策を検討するワーキングチームを常置し、さらに、必要に応じたアドホックなワーキングチームを設置することも可能としており、学部・研究科から選出された所員が参画のうえ、全学的な検討を進めている。

成績評価基準については国際基準に適合した GPA 制度を運用しており、進級・卒業判定、成績不振者への学習指導をはじめ、奨学金の選考、大学表彰規程による学生の表彰、交換留学の選考など、学部・研究科単位や全学単位で GPA を活用している。あわせて、GPA を単なる成績の数値化ではなく、学生自身が学修成果を測定し、主体的に学修計画を立てることができるような取り組みがなされている。

また、学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程のすべてにおいて、全授業科目の授業計画（シラバス）が作成され、コースディスクリプション（科目概要）および科目ナンバリングを明示し、学生の学修計画立案に寄与することを企図するとともに、各科目の到達目標、授業形態、事前・事後学修の内容、成績評価の方法・基準が示されている。修得すべき学修成果は、授業ごと、学年ごと、そして、卒業・修了までの全課程を通じ、シラバス、履修案内等において明示している。シラバスについては全授業科目（約 1300 科目）の英語化が完了している。

上述の通り、単位の実質化の観点において、教学マネジメント推進センターを中心に全学的な諸施策の検討を進め、各学部・研究科の教学の改善・企画に連動させた質保証体制の推進を目指しているところである。

大学等名	慶應義塾大学
⑤ 他の公的資金との重複状況【2 ページ以内】	
1. 世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI) 2022 年度の世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI) の拠点に慶應義塾大学の「ヒト生物学－微生物叢－量子計算研究センター (Bio2Q)」が私立大学で初めて採択された。ヒトの様々な疾患や発達・老化に関する多臓器解析データ、微生物叢データを取集し、人工知能並びに量子コンピューターを組み合わせデータ解析を高速化することによって、ヒトの健康維持に関する体内機構の理解を進化させる新しい生命科学を国内外の優れた研究機関と連携しながら展開する。 2. 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (J-PEAKS) 慶應義塾大学では、私立大学として唯一の WPI 拠点および COI-NEXT 本格型 2 拠点を有する。2023 年 12 月に採択された地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (J-PEAKS) では、これらの特色ある拠点群を発展させ、更に智徳の協働で多様な研究拠点を生み出し育む「土壌」を醸成し、課題解決から社会実装までを支援する体制を構築する。それにより学問、特に実学の成果を「未来のコモンセンス」として成就させるエコシステムを確立する。 3. 日本学生支援機構令和 6 年度海外留学支援制度 (協定派遣・協定受入) ・協定派遣 学生交流創成タイプ (タイプ A) 採択プログラム Overseas Clinical Rotation Program (海外臨床実習プログラム) 理工系高等教育機関への学生派遣プログラム * 慶應義塾大学医学部 短期海外留学プログラム【臨床】 相互交流協定を活用したアジア発グローバル法務人材養成プログラム KBS 交換留学プログラム (派遣) KBS ダブル・ディグリー・プログラム (派遣) ・協定派遣 学生交流推進タイプ (タイプ B) 採択プログラム CEMS MIM プログラム (派遣) ECN フランス語フランス文化研修プログラム * ・学生交流推進タイプ (タイプ B : 双方向協定型) 高度グローバル人材育成のための双方向交換留学プログラム *を付したプログラムについて、本事業の申請内容との関連についての説明 「理工系高等教育機関への学生派遣プログラム」は、本事業の申請で本学が取り組む DD プログラムとは異なり、修士の学位取得を伴わない交換留学プログラムである。本事業が学部生を対象にエンカレッジプログラムを運営し、欧州への修士留学への関心を喚起することで、本プログラムへの参加者が増えることが期待される。 「ECN フランス語フランス文化研修プログラム」は、本事業でエンカレッジプログラムとして位置付ける学部生を対象とした留学導入プログラムの一つである。 上記 2 つのプログラムの他は、本事業の申請内容とは直接の関連はない。	

(大学名：慶應義塾大学) (タイプ：A)

補助期間における各経費の明細【年度ごとに1ページ】

補助金申請ができる経費は、当該事業の遂行に必要な経費であり、本プログラムの目的である大学の世界展開力強化のための用途に限定されます。（令和6年度大学の世界展開力強化事業公募要領参照。）

(単位：千円)

＜2024年度＞	経 費 区 分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]	66	0	66	
	①設備備品費	0	0	0	
	・				
	・				
	②消耗品費	66	0	66	
	・ 事務用品消耗品一式	66		66	
	・				
	・				
	[人件費・謝金]	2,620	0	2,620	
	①人件費	2,500	0	2,500	
	・ プログラム運営専門職員人件費	2,500		2,500	
	・ 【1名×500千円×5月】			0	
	・				
	②謝金	120	0	120	
	・ 留学アドバイザー資料作成【12名×10千円】	120		120	
	・				
	・				
	[旅費]	3,500	0	3,500	
	・ TIME総会【教員2名×600千円】	1,200		1,200	
	・ TIME総会【職員1名×400千円】	400		400	
	・ ジェノヴァ大学訪問【1名×550千円】	550		550	
	・ 欧州協定校訪問【2名×550千円】	1,100		1,100	
	・ GLS実地研修春 - 台湾引率【2名×125千円】	250		250	
	[その他]	9,414	0	9,414	
	①外注費	3,250	0	3,250	
	・ インタラクティブ動画・ウェブサイト構築（留学促進）	3,250		3,250	
	・				
	②印刷製本費	1,350	0	1,350	
	・ ダブルディグリーパンフレット 2,000部	1,000		1,000	
	・ 2025 留学紹介チラシ 5,000部	350		350	
	・				
	③会議費	0	0	0	
	・				
	・				
	④通信運搬費	0	0	0	
	・				
	・				
	⑤光熱水料	0	0	0	
	・				
	⑥その他（諸経費）	4,814	0	4,814	
	・ ECNフランス文化研修 派遣学生海外渡航保険	22		22	
	・ Keio-Aachen スプリングスクール プログラム費用補助	3,200		3,200	
	・ SMART LYONプログラム 派遣学生海外渡航保険	100		100	
	・ SMART LYONプログラム費用	810		810	
	・ GLS実地研修 春-台湾 参加学生現地宿泊費	480		480	
	・ ISAE SUPAEROプログラム派遣学生海外渡航保険	52		52	
	・ 留学促進ツール作成	150		150	
2024年度	合計	15,600	0	15,600	

(前ページの続き)

(単位：千円)

＜2025年度＞	経 費 区 分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]	100	0	100	
	①設備備品費	0	0	0	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	②消耗品費	100	0	100	
	・ 事務用品消耗品一式	100		100	
	・			0	
	・			0	
	[人件費・謝金]	5,260	0	5,260	
	①人件費	5,100	0	5,100	
	・ 事務職員人件費【1名×416千円×12月】	5,000		5,000	
	・ TA人件費【@1.5千円】	100		100	
	・				
	②謝金	160	0	160	
	・ 外部評価委員謝金【2名×50千円】	100		100	
	・ シンポジウム謝金【2名×30千円】	60		60	
	・				
	[旅費]	2,400	0	2,400	
	・ EU大学との交流出張費	2,400		2,400	
	【協定校訪問2名×600千円】				
	【シンポジウム招聘2名×600千円】				
	・				
	・				
	・				
	・				
	[その他]	8,240	0	8,240	
	①外注費	0	0	0	
	・				
	・				
	②印刷製本費	1,300	0	1,300	
	・ 広報パンフレット作成	1,300		1,300	
	・				
	・				
	③会議費	200	0	200	
	・ DD関連シンポジウム開催費・レセプション	200		200	
	・				
	・				
	④通信運搬費	0	0	0	
	・				
	・				
	⑤光熱水料	0	0	0	
	・				
	・				
	⑥その他（諸経費）	6,740	0	6,740	
	・ ホームページ保守管理費	100		100	
	・ DD関連シンポジウム運営委託費	2,140		2,140	
	・ 学生旅費（一部）【40名×@100千円】	4,000		4,000	
	・ T.I.M.E. Association年会費	500		500	
2025年度	合計	16,000	0	16,000	

(大学名： 慶應義塾大学)

(タイプ： A)

(前ページの続き)

(単位：千円)

＜2026年度＞	経 費 区 分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]	200	0	200	
	①設備備品費	0	0	0	
	・				
	・				
	・				
	②消耗品費	200	0	200	
	・ 事務用品消耗品一式	200		200	
	・				
	・				
	[人件費・謝金]	5,200	0	5,200	
	①人件費	5,100	0	5,100	
	・ 事務職員人件費【1名×416千円×12月】	5,000		5,000	
	・ TA人件費【@1.5千円】	100		100	
	・				
	②謝金	100	0	100	
	・ 外部評価委員謝金【2名×50千円】	100		100	
	・				
	・				
	[旅費]	3,000	0	3,000	
	・ EU大学との交流出張費	3,000		3,000	
	【TIME総会（2名×600千円）】				
	【協定校訪問（3名×600千円）】				
	・				
	・				
	・				
	・				
	[その他]	7,600	300	7,900	
	①外注費	0	0	0	
	・				
	・				
	②印刷製本費	2,300	0	2,300	
	・ 広報パンフレット作成	2,300		2,300	
	・				
	・				
	③会議費	0	300	300	
	・ KDDD開催・打合せ費	0	300	300	
	・				
	・				
	④通信運搬費	0	0	0	
	・				
	・				
	⑤光熱水料	0	0	0	
	・				
	・				
	⑥その他（諸経費）	5,300	0	5,300	
	・ ホームページ保守管理費	100		100	
	・ 留学PR動画・ツール作成	1,500		1,500	
	・ 学生旅費（一部）【32名×@100千円】	3,200		3,200	
	・ T.I.M.E. Association年会費	500		500	
	・				
2026年度	合計	16,000	300	16,300	

(大学名： 慶應義塾大学

)

(タイプ： A)

)

(前ページの続き)

(単位：千円)

＜2027年度＞	経 費 区 分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]	66	0	66	
	①設備備品費	0	0	0	
	・				
	・				
	・				
	②消耗品費	66	0	66	
	・ 事務用品消耗品一式	66		66	
	・				
	・				
	[人件費・謝金]	5,100	0	5,100	
	①人件費	5,000	0	5,000	
	・ 事務職員人件費【1名×416千円×12月】	5,000		5,000	
	・				
	・				
	②謝金	100	0	100	
	・ 外部評価委員謝金【2名×50千円】	100		100	
	・				
	・				
	[旅費]	1,800	0	1,800	
	・ EU大学との交流出張費	1,800		1,800	
	【協定校訪問（3名×600千円）】				
	・				
	・				
	・				
	・				
	[その他]	3,700	700	4,400	
	①外注費	0	0	0	
	・				
	・				
	②印刷製本費	200	700	900	
	・ 広報パンフレット作成	200	700	900	
	・				
	・				
	③会議費	0	0	0	
	・				
	・				
	・				
	④通信運搬費	0	0	0	
	・				
	・				
	⑤光熱水料	0	0	0	
	・				
	・				
	⑥その他（諸経費）	3,500	0	3,500	
	・ ホームページ保守管理費	100		100	
	・ 学生旅費（一部）【29名×@100千円】	2,900		2,900	
	・ T.I.M.E. Association年会費	500		500	
	・				
2027年度	合計	10,666	700	11,366	

(大学名： 慶應義塾大学

)

(タイプ： A)

)

(前ページの続き)

(単位：千円)

＜2028年度＞	経 費 区 分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]	33	0	33	
	①設備備品費	0	0	0	
	・				
	・				
	・				
	②消耗品費	33	0	33	
	・ 事務用品消耗品一式	33		33	
	・				
	・				
	[人件費・謝金]	3,100	0	3,100	
	①人件費	3,000	0	3,000	
	・ 事務職員人件費【1名×416千円×7月】	3,000		3,000	
	・				
	・				
	②謝金	100	0	100	
	・ 外部評価委員謝金【2名×50千円】	100		100	
	・				
	・				
	[旅費]	0	0	0	
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	・				
	[その他]	2,200	1,000	3,200	
	①外注費	0	0	0	
	・				
	・				
	②印刷製本費	1,000	1,000	2,000	
	・ 広報パンフレット作成	1,000	1,000	2,000	
	・				
	・				
	③会議費	0	0	0	
	・				
	・				
	・				
	④通信運搬費	0	0	0	
	・				
	・				
	⑤光熱水料	0	0	0	
	・				
	・				
	⑥その他（諸経費）	1,200	0	1,200	
	・ ホームページ保守管理費	100		100	
	・ 成果報告ツール	100		100	
	・ 学生旅費（一部）【5名×@100千円】	500		500	
	・ T.I.M.E. Association年会費	500		500	
	・				
2028年度	合計	5,333	1,000	6,333	

(大学名： 慶應義塾大学)

(タイプ： A)